

ツーチー 2018年1月 *253* 



### 表見返し●

文・證厳法師/訳・済運/撮影・黄筱哲

### 善念を護り続ける

一、怒りを柔和で従順な態度に変える。

心して善念を護る三つの方法

直ちに無明を取り除き



愚かさを清らかな智慧に変える。

### 表紙



あるカ 斉が配 元々貧 したた	ルバー 布する しいこ	ト貧団 温かい の地区 済の求	団地区 小昼食 区は、 女援重	都フリー の子供達 をひた 8月のか 点地区と	を。列に すら待 く害でも	こ並び、 ってい 犬況が悪	慈 る。
【衲履足	寸步。	大愛	【證厳法	海外盟	【慈済月	喜捨の	1 2 7

01.33										
「慈済ものがたり」をご自宅までお届けします【善の扉】	慈済大事記【十二月】	全てが愛	寸歩も離れず大地を護ろう大愛で情のある衆生に付き添い【證厳法師のお論し】	海外開拓者は刊行物で慈済を広めた(下)【慈済月刊・慧命を守護して五十年】	喜捨の心を以て人生を変える【書籍の抜粋】					
す	済運/訳	済運/訳	慈願/訳	済運/訳	葉美娥/訳					
111	105	100	88	72	67					

【社論】

誠心斎戒の天職

森玄一郎 黒川章子/訳 26 8

自立という

ルヴェル

悲しみの

エラ

オネ

ンで最も幸せな男・ハービー被災地支援 貧困地域の日常 惟明/ 心嫈/訳 62 54 40

ヒュースト

ケア活動で結ばれた絆

閻麗妮/訳

【慈済国際】

慈願/ 訳 4

慈済ものがたり

慈済ものがたり

## 誠心斎戒の天職

をこうむった。 査にはせ参じた。 てメキシコを強震が襲った。 一月上 旬、 アメリカ・カリフォルニア州では史上最悪の森林火災が続き、 日夜続いた暴風雨により、 Ľ -の災害支援を行っていたが、 北米の慈済ボランティアたちはテキサス州 台湾の至る所が浸水と断水の 手分けしてメキシコの災

の四大要素の不調はこの 時、 人々 に大自然の 威力の恐ろ しさを感

じさせた。 って備えていても、 科学技術が進み、 天災の威力にはかなわない。 経済大国の米国でさえ、 どんなに防災対策を行

犠牲者が出た。 年の夏は連日の豪雨により、 長期にわたる内戦、 難な生活を強いられている。西アフリカのシエラレオネ共和国を例にとれば、 災難は往々にして重なるものだ。 そして、二年前はさらにエボラ熱の流行に苛まれた。 アフリカは二十年来の洪水に見舞われ、 今でも、地球上の多くの場所で人類が困

ある。 と写真は見るに忍びない。 険性は考慮されていなかった。 イギリスの植民地時代に建設された首都フリータウンは海に面した山 「慈済月刊」のカメラマ 海上貿易の利便性を考慮した都市造りで、 ンが再度シエラレ 同国はアフリカで最も降水量の多い地域に位置し、 オネ共和国を訪れ、 洪水や土石流の潜在的な危 報道した記事 の上に

資本主義の開発と搾取の下に、 現地民衆の生活は依然として困窮している。

5

2018 • 1

6

が緩み、 多くの 長している。 人は生きるために土地の安い山 ゴミが下 -水道を塞 1 でい . る。 劣悪な公共衛生は、 に移ったが、 そこは、 伝染病の蔓延を助 濫伐の結果地

二〇一五年以前の二十年間 災の威力が に報道し、 一・七兆ドルに達すると、 経済誌  $\mathcal{O}$ が増すに 災害に 「エ コ つれ、 0 ミス 1 て 災害もまた巨大化し 同誌は報じている。 人々 の暴風雨と洪水によっ は、 に注意を喚起し ハ リケ ン 7 ハー た。 V て世界がこうむった損失は る。 地 F 一被害 球温暖化の影響で、 国連 の統計によると、 0 様子を大 天

なり、 蓄積したため、 地球温暖化の原因は、 極端な気候が出現するようになった。 生態環境が対応できないことにある。 商工業の高度成長によって温室効果ガ このため気候が不順と スが 短期間に

根本的な問題は、 人心の限りない貪欲と飽くなき富 0 追求と物質の享受

にある。 して、 環境と資源の破壊を少なくすることはできる。 何 も原始的な生活に戻る必要はない が、 日 K ・必要で は な 11 物を倹約

は天地間の悪気を消すことができる。 大地の息遣いから畏敬を感じ取れれば、 戒し、 私欲や我執を減少させて、 広 い度量で人事万物の変化を受け 目に見えなくても人と人の間、 入れ、 また

えた試練であり、 恐慌に陥れた時、 びか 二〇〇三年に新型肺炎SAASが台湾に蔓延し、 けた。 てい るから 今 は っである。 この時代に生きるすべての あの 證厳法師は初めて人々に真心を以て斎戒と菜食をするよう 時以上に斎戒する必要が かにし て病原を取り除くかは、 人の責任である。 ?ある。 その未知の なぜなら人心 天が私たちに与 疾病が の疾病が K

(慈済月刊六一二期より)



た。 和 国

され、 るエ 国シエラ 見舞 ボ もう十分といってよ ラ出血熱の脅威に十 オ たほ ネ は か、 数年に及ぶ過酷 死に 至ることも ほどの苦難 カ月もさら な内

界的に

知

6

れ

ることだが

わ

が

か

け

ることとなっ

を味わ 水と土石流が二〇一七年 0 寄せ してきた。 そこにもう一 月 0 の災難、 四日に不

今まで毎年雨期には決ま 地勢が低い地区やスラム街などの 0 て洪水が発

写った。 九月十五日の水害はさらに多くの人命を住民に影響を与えてきたが、二〇一五年

場所を失った。 千三百人 水と土石流 今年発生した首都 多くの家屋が倒壊し、 が死亡あるいは の規模は前 フ IJ 代 未聞であった。 行方不明とな 六千人が住む タウンで  $\mathcal{O}$ 洪

## 早朝五時 土石流発生

とくにフリータウンのリージェント、ク被害が最も大きかったのは西部地区で、豪雨と洪水は全国各地を被害に陥れた。

ぶされ、 大量 害が最も深刻で、 0 イン  $\overline{\mathcal{O}}$ 土石流と洪 そのうち、 タウ 多くの人が生き埋めになった。 ラムリー 付近の 水により集落が -ジェン Щ などの の半分が崩 地域 区 の被 で 0

た。 れる。 や土地を荒廃させる開発行為が原因とさ が家屋を押し の麓まで転 盤がゆるい 今 回 の 土 山が崩壊 が 地域での住宅建設、 石流災害は、 0 つぶして飲 て行き、 無数の巨大な石が 大量 近年の乱伐、 み込んでしま  $\overline{\mathcal{O}}$ 泥と洪 水流分断 Ш 0

四十五分で、  $\mathcal{O}$ 悲 劇 が 住民はまだ寝てい 発 生 L た  $\mathcal{O}$ は 早 た。 朝 災害 五.

発生後、 性や子どもが となった数百人の村 人が行方不明のままだった。 を収容したが、 た場所が集団墓地と化 スキ いた。 それでも八百人を超える ユ 隊員が五百体 人の中には多くの 大きく 生き埋  $\mathcal{O}$ 、山崩 遺 8 体

# 集団告別式 悲しみの幕開け

悲しみ 共和 亡くなった命に限らず、 いて 再 国  $\mathcal{O}$ 生が に陥  $\overline{\mathcal{O}}$ 洪 水 人 ハ々を混 必要となった。  $\mathcal{O}$ ħ 悲劇 た。 災害後、 乱 は、 記と絶望 再び 打ちひ 壊れ 全て シ そ エラ しがれた た家屋や  $\mathcal{O}$ Ū て深 面 にお オネ

心の再生も含まれる。

怖に満ちた感情に包まれた。 子どもを失った母親はすすり泣き、 、犠牲者と行方不明者により、 玉 |全体が った人は涙を流し 妹を失った子どもたち 沈 んだ空気に覆わ た。 国全体が多く は泣き叫 混 親や兄 乱と恐 伴侶

n 目の当たりに げ遅れた人、 ができた。 ラ  $\hat{O}$ 泥に飲 K からは辛い 身体 0 涙は大雨 以み込まれ 就寝中 で収容され した人、 親戚が洪 体験が語られた。 に亡 の中でも たりしたため、 た人……。 巨石にぶつ 水で流され くなった家庭、 は つきりと るの か バ った ラ を X.



慈済ボランティアは子どもたちと一緒に遊んだ。●ヒル・ステーションで温かい食事を配布した後、

14

が から  $\mathcal{O}$ できた。 災地に 救助を求める声をは ス 丰 ユ 1 る 隊 人皆が、 員や家族、 崩落現場の地中 つきり聞くこと そ L 7 土 **石流** 

協力 てい が 捜索に当たった。 V の国が スキ る中、 t たら 生存者の救出 ユ した困 犠牲者を哀 数多くの 隊に参加 1難に ボ 並び して ラン 必 悼 死 に行方不明者 テ 掘 に 立ち ŋ 1 洪 起こしに T 水 が 向 B 政府 カン 0 石

発見された遺体は国立コノート病院の

政府は集団告別式を行った。し、遺体の数が収容スペースの容量を早し、遺体の数が収容スペースの容量を早

より 失く れた。 居住スペ 12 犠牲者の埋葬時には、 状態であ 必 この告別式は、各宗教団体が執り行 きれ 要なもの  $\mathcal{O}$ た人 況 小さく 多くの参列者、 は スの深刻な不足に陥った。 さらに悪化 Z 0 な飲み水、 たが、 0 を守るだけ 7 す 貧 す この洪水と土石流に V り泣く声 国は、 念仏や祈禱が行わ とくに愛しい 医療、 したといえる。 でも精 が響 衣類、 Z 杯に近 1 の生活 た。 人を V

> はじめ 民間 国はそうではないと言えるだろう。 任だと思うだろうが とができる。 ý 団体や企業、 ソ 般的に被災者の生活支援は政 て被災地の ス が極め 個人の緊急援助により、 村人に物資を届けるこ て限られてい シエラレ オネ共和 . るため、 府 政府 0

最も 共和 であった。 応え、 仏教慈 国政府 家を失っ 熱心な援助 0 団体 済基金会は 0 人道支援を行った団体 要請 た住民に Þ は 個 非営利 人が に応えたが 早速 有効な援助 支援要請 団 体 シ カコ 工 ラ 5 を行 に真  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ V Ł 中で オネ 0 0  $\mathcal{O}$ 1

 15
 2018・1

 整済ものがたり

### 慈濟のシエラレオネ共和国への援助

### 2014年

●5月、エボラ出血熱の流行が確認され、1年以上にわたり蔓延。 合計14214名が感染し、3956名が死亡した。

### 2015年

- ●3月3日 慈済基金会とヒーリー国際救済財団、カリタス・フリータウンが花蓮で協力覚書に署名し、エボラ出血熱流行後の再建援助に当たった。
- ●台湾と米国から物資を輸送し、協力パートナーや当地のラニー財団が 支援物資を配付した。孤児収容施設、公立病院、診療所、カトリック医 療施設、戦争で手足が切断された人々を収容するコミュニティー、国家 エボラ出血熱緊急対応センターに配付された。
- ●救援物資として福慧ベッド1512床、エコ毛布3620枚、即席飯15.74トン、エコ食器3000セット、マスク711000個、医療用手袋340200セット、聴診器700個、医療用ベッド1床、配付袋1200袋、女性衣料1056着、有機もみ米粉1190箱を配付した。

### 2016年

- ●フィリピン、マレーシア、台湾から孤児院、学校、政府機関、コミュニティーへ古着119121着、マスク246000個、靴37495足を送付した。
- ●台湾の行政院農業委員会が推進する海外への米援助計画により、米 200トンをエボラ出血熱の生存者や孤児院などへ送付した。

### 2017年

- ●米国から食品と医療用品、台湾行政院農業委員会からの海外援助米 3 0 0 トンを数回に分けて送付した。
- ●8月14日、フリータウンで豪雨による水害と土石流で、500人が死亡、801人が行方不明となった。
- ●協力パートナーが8月19日からリージェント、クレインタウン、ラムリーの3つの重大被災地の収容センターで温かい食事を提供した。緊急援助終了後も2018年まで孤児院と水害被災者収容センターで食糧を提供する。
- ●8月下旬、台湾から航空便と船便でエコ茶碗10000個、スプーン10000個、エコ毛布8000枚を送付し、9月16日から23日に米国慈済ボランティアが配付した。
- ●政府の家庭安定プロジェクトに合わせ、家を失った住民 1 0 9 0 名の転居を支援し、各家庭に白米、食器、毛布を寄贈した。

(資料提供:慈済花蓮本部、米国支部)

所脇で被災者を慰める慈済ボランティア。

ェン

の土石流災害現場付近の臨時

## 食糧不足 中長期的な援助

国際救済財団、ラニ 、被災地であ のカリタス い況を評 マネ共和 石 現地慈善団 が スキ フリ 国 1つたほか、被災現ーー財団の一行ととリージェントとラムアートとラム 体 住  $\mathcal{O}$ 援助活動のた す 丰 る慈 IJ スト教 済



翌日、 テ ボランテ 1 T 0 達は被災地 0 クラ コ 3

人を超える住民が ンタウ カル 困 バ 窮 · で 洪 7 ることが分 水により千

かった。

ため、 に協力し 食糧不足に は協議の 慈済ボラン カン ステ 後、 よる 11 テ 飢 食事を配 餓 シ イ 彐 T と現地 栄養 エ  $\mathcal{O}$ 布することを 住 失調 民  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 力 ため ル バ

国際救済 慈済は台湾 野菜や調味料 財 団 カン とカリタ 5  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 米を提供 調達資金を提供 ス . フ ij ・タウ IJ

> た。 食事 慈済 万食であった。 月中 0 そ と協力パー  $\mathcal{O}$ 工 ために米などの食糧を提供 避難所 カル 旬 て、 から下 · で約 では、 ラム 六千食、 IJ 旬 慈済がラニ で約三万五百食、 頃までの統計では、 とリ が緊急に提供した ラム エ した。 財団と ント で約 IJ  $\mathcal{O}$

力 中 一難所三カ所に配給した。 害後の救援は 海外の慈済ボランティ に訪れた際には、 地区、 おかずを古い 後に設置されたジュバ 食糧供 毛布、 、学校 給 アチ に  $\mathcal{O}$ ~n 留 避難所や J飯茶碗、 「まら ムが九

口 ンテ とともに、 シ ボランテ ユガ 無償援助を提供した。  $\mathcal{O}$ IJ 住民 1 口 被災者収容セン T ジェ を訪問し フ 1 土石流 で災害状況を調査する などい た。 のあ また、 0 Ш ボラ カン あ  $\mathcal{O}$ 

質向  $\mathcal{O}$ 上支援に コ れらの つい 病院で病室の寄贈や 慈済ボランティ 病院と三四軍病院 て評価した。 ア また、 Ŧ 医療 t A  $\mathcal{O}$ 問

器を使用して食事するよう奨励した。 と慈済ボランティアは、 れる。衛生上の問題を減らすために、ラニー財む被災者に食事を提供した。「病は口から」とい クラインタウンの炊き出し拠点で 手摑みではなく、 川沿い エ - 財わ住





●災害後、温かい食事を継続的に提供することで、子どもたちがお腹いっぱいになり、生きる希望が持てるようになる。

話し合いを行った。

## 希望の再構築 全世界から

た。このミサはカリタス・フリータウン教会が主催する世界平和ミサに参加し最中、セント・エドワード・カトリック

21 2018・1 整済ものがたり 20



した。
■ヒルステーションの古い学校にある収容した。

慧もそ 宰し、 ラレ えた。 向  $\mathcal{O}$ を正 C E れう オネ 證厳法  $\mathcal{O}$ のミサで證 米国慈済ボラ Ο と励まされた。 0) 工 も務めるピ 土地 ネ 師 ル ギ で起きた災難に立ち は皆が負 シテ 法 12 を替えて、 師 タ 0  $\mathcal{O}$ 1 エネ T 神 話を伝 の曽慈 父が主 シエ ルギ

湾、米国、フランス、スペインからに慈済の援助を直接受けた人は、台シエラレオネ共和国の国民、とく

持ちを示した。 資を提供したボランティア達に感謝の気被災地に駆けつけ、温かい食事と援助物

境整備、 支援 じ取っている。 な形で表されたことを、 證厳法師と慈済ボランテ の寄り添い の約束は、 世界の平和 指導と心理的 食事の提供、 へ の 祈り 多くの村人は感 1 など、 ア ケア 子どもた  $\mathcal{O}$ 被災者 様々

(慈済月刊六一二期より



●ドン・ボスコ・ファンブルの収容センターに一

 23
 2018・1

 終済ものがたり
 22

りをささげた。 ●8月中旬のリージェント土石流では未だ見つかっていない遺体がある。9月19日、慈済人と協力パー -が土石流災害現場付近の避難所で白米を配布し、多くの人が愛の印を残し、同時に犠牲者と行方不明者に祈 トナ

24



25 2018・1 慈済ものがたり



### 謝公達

ロサンゼルス校で博士課程を終了した。 心理学を学び、 台湾出身、 同大バークレー校大学院で社会福祉学部を卒業した後、同大・4歳でアメリカに渡り、カリフォルニア大学アーバイン校で

殺危険度の評価や災害や誘拐事件などによる精神的なリスクに対応してきた。 全米自殺防止センター認定の心理療法士でもある。現在もロサンゼルス心理 衛生部アジア太平洋家庭心理健康センター責任者を務める。 ロサンゼルス市の精神衛生課緊急対応部の責任者を長年にわたって務め、自

27 2018 · 1 慈済ものがたり 26

7 技 7 界 11 2 術 仲 B を が で 0 بخط 良 角 11 樂 # 困 地 す 域 7 う 朴 7 あ な 生 真 で 0 1) 子 当 当 115 生 今 供 15 5 7 達 あ が き 11 67 5 き 苦 5 き 3. 見 不 た سح 11 思議 た 輝 7 0 67 今 は 115 0 初 達 سح だ سح 思 3 7 0 0 た

0

た

共和 た時、 を配 ンテ  $\dot{O}$ シ が辛 国出身の二十 布 イ した後、 T フランクに会っ ル V) 12 曽慈慧に声をか あ T 気 る収 メ 0 容施設 IJ 歳の若者であ 向 た。 力慈済支部 くま けた時 まに シ で エラレ 温 歩 カン る。 は  $\mathcal{O}$ 11 ボ オネ 朝 T 77 ラ 食

> からに苦し 0 て 11 るの んでい もや 0 る ととい のが 分かった。 う状 態 で、 見 る

て全身に痛みがあるという。 を聞くと、 れて十八時間生き埋めになり、 彼をゆっ 首から喉、 くり座らせ、 胸 通訳を介 さらに足にかけ 土石流に流さ 首だけ て Ж

で退院が許可されたのだった。 院していたが、 しまっ 1 たので、 たそうだ。 顔が泥水に幾度もさらされ 家に帰りたいと申 救出されてから 十日間入 出 たの -

化され た。 せることにした。 は固形物が飲み込めず この この地域で唯一の生存者だっ る時に胸が 災害で彼は十一人の家族 は 診 療所 2圧迫され  $\sim$ 付き添 食べ物が て苦し 2 て、 滑で消 た。 を失 受診 1 .と訴 彼 0

### 負傷後は腹式呼吸により リラ ッ クス

施設内ではフランス から来たボランテ

> 師 が 1 は あ T 困惑し 医師 る箇所を検査 が てしまった。 フラン してく クに 関 れ 心を寄せ、 た  $\mathcal{O}$ だが 痛 医 4

みる なか 見た くり で手を上に挙げることも 数 時、 抑 0 日 だえた時 たか 前に 胸 く傷む 部骨折 らだ。 フランクの はそ や脱臼 れほ とい 医師 . う。 どで が彼 V できた。 0 様子は は の首に L なく、 か ゲ ン 見ら 写真 9 自 ゆ 7 n を 0

て来た。 しか 付き添  $\mathcal{O}$  $\Box$ 医師 ったそう 問 は は数 診が終わると、 な 心 理 カン だ。 の目前に 的要素によ 0 た。 彼の言 彼 ・フラ 0 る可能 状 う通 私は彼を静 ン 況 ク V)  $\mathcal{O}$ カン 流動 性 ら見 食事 が 出 カン る 食

る

0

試みた。

できるようなアドバイスである。 恐怖や悲しみを感じている、 るかを理解してもらうためである。 身に何が起こり、 イスを行った。 時どう感じたか。 土石流が シスト 彼との 、不安や焦燥感に襲われる、 過敏に驚く、 レスから自分を解放 その時何を考えたか。 会話は以下 あっ っ た 目 大きな災害に襲われ どんな反応が起きて 極度の 四、最後に少しアドバ のことを話  $\dot{\mathcal{O}}$ 順序で進 疲労感がある、 しリラックス などそれら  $\equiv$ 8 して 些細な た。 もら 眠 その 7 n 心

> 後の だからその みというの 怖を痛みとともに記憶してい きな傷を負ったことで、 る場合 は彼に 体の痛みとして感じるのだと。 困難な状況 は、 1がある 時のことを思い出しただけ してみた。 心が感じた苦しみや災害 からくる不安感も含 のだと。 体はその 痛み 災害と る。  $\mathcal{O}$ 原 その痛 時 因 う大  $\mathcal{O}$ は 恐

ほか、 た。 見せ、 は和らぎ、 えば施設内の輔導員に彼 それからレントゲン写真の結果を彼 心も落ち着きを取 人と関 骨折や脱臼はし なくな わ n つて 合うよう ていない り戻せれ いくだろう。 の苦し 勧めた。 ば、 · と説 その たと 痛み 明

話すことも有効だろう。

だの になるよとアド れることなく今のことを考えられるよ くり は腹式呼吸をしてみようと言った。 少し気持ちが楽になったようだった。 フラン ク とくに眠 で、 、お腹に息を吸い込むと自然に膨ら ノスする 暇があったら練習するよう勧め クは注意深く話を聞い ので、 れない時に行うと全身がリ バ イスした。 過去や未来にとらわ てい ゆっ Ñ

# 始めの一歩から遠くへ歩き出す自分を大切に

一緒にテントへ戻ると、通訳が私に、

になり、 と伝えた。 今何をしたらい に回復してい とで、 呼吸はとても役に立つだろうと言っ 彼は土石流で家族を失ったことに う何か行動 1 は、 るのだと話してくれた。そして腹式 体をいたわると同時に心も良 心身のリラックスを心が 自 分と する気持ちが生まれ くことを説明した。 周囲 V のか の生活が良くなるよ が考えられるよう るの そして、 けるこ だよ い方

道を進み、 を行うと、 ることができるようになる。 小さな一 て歩き出すことが 歩だが 自分を利し他人も利する活 時的 に 辛い そこから高 できる。 記憶や焦り 私た 遠 V ちが くを見 所 か を TE. 目

師の診察を受ける間付き添い、 ●謝公達(右)はフランク(左から2人目)が医 病状を把握した。

本人を切り 離す効果が得ら れるのだ。

だが、 た。 たいと考えていた。 のある若者がいれば一緒に子供達を教え 言った。 をもってできることは てくれた。 -ボール 彼は子供達に読み書きを教えたいと ほかにも大学で教育を受けたこと 教科書とノ 私たちは 氏はこの 収容施 ような観点を歓迎し ない トがあれば理想的 混設で何 かと話し合っ か目標

回り、 ある日、 必要な教科書、 子供達につい 彼は施設内のテントを訪れて て調査した。 そして百三十人の 学年、

児童に 支部の曽慈慧さんに相談した。 つい て名簿を作り、 慈済ア メリカ

いくはずである。 のあるプラス方向 自分の自立にもつながるのだから、 育を受けることができるということは、 してくれた。 現地で教科書やノート、 曽さん 人のために尽すことであると同時に、 はすぐに協力を申し出てくれ 施設内に学校が作られ、  $\mathcal{O}$ エネルギーとなって 筆記用具を手配 希望

その 来た 通りにも出てみた。 その日の 足取りは落ち着いていたので、 ので、 午後、 手を取って施設内を歩 フランクが私を尋ねて 歩きながら彼に「行 いた。 外の

> を楽しんだ。 やかな風が吹いてくるのを心地よく思 木の幹になったような安定感を感じ、 立ち止まっては自分がどっ 禅(歩き方の修行)」を紹介してみた。 クは楽しそうに笑顔を浮かべた。 足の裏全体が大地を踏みしめる感覚 手をつないだまま、 しりとした大 フラン 軽 Þ

### タボスク 暗闇を照らす燈

者の 経験のある未成年者を受け入れ、 た。 私たちは続い ここは非営利慈善機構であり、 ジ 彐 · ジ 神 てタボ 父は四百人の虐待された ス ク 収容所を訪れ 里親希 責任



いる。その姿には大変感動した。望者とのコミュニケーションを援助して

害届け が なくな 少 [暴力 調査に当たるだけなの な 彐 が出されても 事件があっ いと話す。 ジ ってしまっ 神父は、 毎 ても警察に たった二 たのだと 年 シ エラ \_ 万四千: で、 V いう。 訴 人 訴 オネで 件も える える 0 警 の被 こと は 察 人 75 官 性

には か は弁護士 の状況 を設 げで多く け、 7 も書記 集めることに を知り、  $\mathcal{O}$ 虐待 犯罪者を摘発することが 記も常駐 0 実態を医療 タボスク した。 7 お は ŋ タ 0 ホ 面 ボ ツ そ ス カ 1  $\mathcal{O}$ ク 5 ラ

> も上る いる だ。 動も て弟や妹の学費を稼い 政府  $\mathcal{O}$ が そ ボ 流行 工  $\mathcal{O}$ 0 ス 支援は ボラ孤児 ような子供 ク は親戚に養 7 で家族を失っ は る。 行 童 0 わ 達の 女子は、 育するよう れ 彐 でい 7 から て t 11 ジ るのだった。 ない 子 割 11 売春に る が 父 依  $\mathcal{O}$ 工  $\mathcal{O}$ を 二割 だそう ボラ 頼 ょ ベ Š 7 H

二年間 ランテ 虐待を受けるとい 夜間に町を歩い の罪で警察に逮捕される児童も 刑務 これまでに二百十五人の イア が毎 が所に入 目 . う。 てい 食べ れら ジョージ これるが、 物を持つ ただけで 児童 そこでも て面会に 神父とボ 「不良行 V  $\mathcal{O}$ る。

がを申し入れた。

業学校 いるか に暮ら えるよう説得 ど食糧を持っ て ボ らだ。 V す ス  $\sim$ 通っ 女の ク のボラン 子は 彼女達に対 て貧 て 技術を身に 貧困 困地域 生活を援助 テ 1 から売春を行 るを訪れ T し生活様式を変 9 け る。 るよう 毎月 また職 そこ って 米 12

けることが ある。  $\mathcal{O}$ あ 彐 同じ る青年を補 ジ 痛みを知る者だ 神 できるの 父は、 導 だと考えて 員に カン 0 養成 て虐待 からこそ、 いる。 たことが さ n た

たいと言った。以前、米が全く手に入らまた、ジョージ神父は私たちに感謝し

() ()

済が 愛会 11 なくて神に 合わせ 米を運  $\mathcal{O}$ ا ا てきたことがあ に祈るば タ で 来たの 神 父か カン ŋ で必 だ ら電話が 0 0 たそうだ。 要がどう た あ り、 カン 慈 間

者を助け、 嬉しそうな笑顔を見せた。 きた人た 建物 0 慈済ボランテ で 中 は私 1 だが たちがい 彼らに安らぎと希  $\mathcal{O}$ 苦労と危険を顧みず そこにも光と愛の 知る世界で最も暗 たのだっ 1 アはその た。 古い ことを聞 望を与えて 力 1 タ が ボ 未 孤 成年 独な 差 スク 7

彼らも暗闇を照らす光明に違 ŧ タ ボ ス ク  $\mathcal{O}$ 支援 組 織 に 感 1 謝 な L た い



できるよう、彼らを世話している。
フリカで20年、収容所の子供達が心身共に回復●アルゼンチンから来たジョージ神父(右)はア

### 励まし合い感謝する

らす人々がいた。自立を渇望し、技術をが苦しくても仲良く思いやりを持って暮られられない旅となった。そこには生活

飯をよそい、

弟、

妹たちに食べさせてい

ちんとしている。

た。

自分も子供なのに弟、

妹の世話をき

みんな慈済の配布した米に感謝してい

生きていきたいと願っていたのだ。身につけ、工具と少しの開業資金を得て

返してくれる。 でもぎゅっと手を握って抱きしめて 意を持って笑顔で接し、握手を求めれば、 をして子供達は純朴で輝いていた。善

37 2018・1 終済ものがたり 36

VI

満ち 最も 達を見た その て いることが V  $\mathcal{O}$ l 、場所に は そうな姿を見 初 8 不思議だった。 ŧ てだと思 かかわらず、 て、 っ た。 こん 世界で 笑顔に な子供

大きな愛と智慧を以て接して て援助を行っ 愛会やギ は感謝し 私を招待 政府やほ ても、 IJ て 射 11 . る。 て来た ボ カン 寸 てく ランティ の非営利団体とも協力 などの現地ボラン 彼女はキリスト ださった曽慈慧さん 0 だ。 T そし に対し た。 て 被災 -教の テ て 1 ŧ T 明

を以て全力で支援をしている。 慈済 ボランティアたちは皆善と愛の心 その姿に

> さんは んは、 小さい 彼のこ な能力とも であげるなどしていた。 く迎えてく カン P 0 さ、 ŋ ŧ 子供 0 若  $\mathcal{O}$ 食事を配給した後も、 のに苦労をい ある方たちだと感じた。 性 1 れる。 いえる。 格は、 囲 陳燦陽さん のに聡明で、 達をとて  $\mathcal{O}$ 私自身も励まされてき 人を笑いに包んでしまう 救援活 林鴻樺さんと楊健正さ とわず、 高小玲さんは、 も可愛が と知 慈悲に溢れ、 動 の時に り合 1 0 緒に遊 0 0 てい 林佳 不可 ŧ 体は 温 て、 思 明 カン 欠

は、 済 温かく思いやり深 月刊」  $\mathcal{O}$ カメラ V 7 ・眼差し ン  $\mathcal{O}$ 蕭 耀華 で人々 Z

ディ ラに を見 していた。 芸術と思 ア 収 9 放送が 8 Ć いた。 感動的 V ル B SUl な場面 りとを融合させようと プの二人 Tzu 品や瞬間 の若者は、 Chi 360 J 力 X

た。 力で うまで VI スティ 7 彼ら 人 ネ R ŧ な  $\mathcal{O}$ ジ  $\mathcal{O}$ 支援に取 仕事 t ヴ どん チャ 対 フォ でする情 なに ŋ 組 ン 疲 ル W バ 熱と で れ と明愛会の ズにも感動 て 11 一努力は る 1 ても  $\mathcal{O}$ だ 0 言 若

ネット会議に 7 る。 シ 師 エラレ  $\mathcal{O}$ 導きと激励 参加しなが オネギ 5 和 に 国で t 大変感 私は法師 1 ンタ 謝 が

> に苦し に堪えず震えておられた した。 せ、 ボラ をにじませてしまった。 話を聞 ン シエラ む姿に心を痛め、 テ 1 き、 T V  $\mathcal{O}$ オネ共和国 励ます姿を目 況 心 そ 時 か に 0  $\mathcal{O}$ 5 の当た は お 人 関 声 Z が哀痛 心 私 が りに 災 を t 難 涙

に支援を続 け 世界各地 りて改 シ エラレ 8 け 0 て 慈済ボランテ 7 感謝を申 オネ共和国 VI ることに し上げ 対 の善良 1 T Ź が な 援助  $\mathcal{O}$ 場 K を

慈済月刊 六一二期 ぶより

どもが混じって立っていた。雨に濡れなどしゃ降りの中、人の群れに三人の子

い子 がら静かに待っている。彼らは慈済基金の子 がら静かに待っている。彼らは慈済基金



 41
 2018・1

 整済ものがたり
 40

っているのだった。

れで待 その うで クラ なのである。 「食べ物 三人 ŧ ス Ĭ う  $\mathcal{O}$ って メ がも 間 V な 私 柄 ことである。 いても平気の らえるかどうか?」が肝心 の疑問 が兄弟か隣近所、 な 0 カン は彼らにとっ は 特定できな 雨の中び ようで、 それ てはど しよ濡 ただ、 V が、

慈済基 れて、 カル  $\mathcal{O}$ シエラレ バ クライ にわ 温か 金会が トと オネギ シ 雨がや いう貧 食事を配付 タ お昼に三つ ゥ 和 困地域では、 海岸近くに位置 玉 ってきた。 0 首  $\mathcal{O}$ てい ル 都 フリ 配付 この に は露 とこ 分か する タ 月 ゥ

> こに 並ん だが ことはない や日 に止 季である。 会は から 天で った時に 七月、 なっ だ。 だまま 常の生活を継続  $\lambda$ 配付を続けるほ 行うた でし 雨具 八月は て そのため、 食べ にわ んを持 まう V  $\Diamond$ 物がな 雨 るようだ。 れ かに シ たな Ó やどり ようとも エラレ で、 降 か仕方が あ V Ļ くなるか 現地 'n 0 住 する場所 出 違 和 ネオ共和 場面で慈済基金 雨 しな 民 たち  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ た雨は、 な 中 人は ŧ 感 V カン を で が 感 国 0 ŧ 慣 n 列 な た。 仕 ñ す な 12 0 列 1) 雨 E 事 戻 0 11

多いことで、 が首を か とくに八月 げ た  $\mathcal{O}$ は、 は、 連続的 が 例 年 に 降 V)

水 が不完全な 0 した。 た大雨が ラ 記 IJ 録を更新 タ ウン た。 \_ 帯 は -水道設 洪 水 小で浸

だった。 発生し は雨 死者約五百 るで外皮が 間連続的な大雨 ンから十 t っと 途中の三百五十世帯の家屋が埋も 0 水ととも た。 V に 被害が 小高  $\mathcal{O}$ 丰 日人と八百人以上の行方不明者 幕が 市街 八月 口 に ほ が 降 され 丘 ど離 延 地 + 深 に見舞わ りる時 に位置 々 に 应 刻 と六キ たか ħ 面 日 12  $\mathcal{O}$ た  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ た 早 れ IJ は ようだ。 た村 朝 て地 Ш ように、 口 ŧ  $\mathcal{O}$ ジ フ 斜面 盤が 流 土石 が IJ 工 瞬く 下っ 土石 はま 三日 流 ゆ 1 タ れ Ź ゥ が

ればならない。いを提供するなど、生活の援助をしなけいを提供するなど、生活の援助をしなけ

カリ ヒー 際赤 き出 した。 災 に被災者 タス財 プや洗 十字、 した。 料 ij 害が発生した後、 水など日常生活に 一国際救援財団、 面 可 台湾慈済基金会をはじ  $\mathcal{O}$ ユニセフ、 設 = 備 1 V やト ズに応えて、 ン イ財団が、 1 国際的 世界食糧計画署 i, 必須な物資を提 フ IJ そ Ν テ 続 G タ ント て Þ ゥ 8 Ο 食物 と緊 が + 玉 動

人は、「山の斜面は地盤が弱く、住むの同じような災害に襲われた経験のない

だろう。 そこに住ん には適さな n るのはなぜだろう、 ほどフ 11 で と分 IJ る  $\mathcal{O}$ カン が タ か 0 ゥ 降る度に必ず ? 7 と 思 が と疑問 るの 洪 0 て 水に見舞 を抱く 1 、るに を言

てこない 住民に の疑問に対 なぜも  $\mathcal{O}$ 0) カン 疑問に対 な 不思議に思うの 聞 かに選択肢 、だろう。 t っと環境の たと 同 て答えること がな 彼 ľ T 疑問 らにはそこに住 ょ t V 理解 1 のだ。 · 住ま フリ を力 答えは返 できなく は ・タウ を選 バ で 0

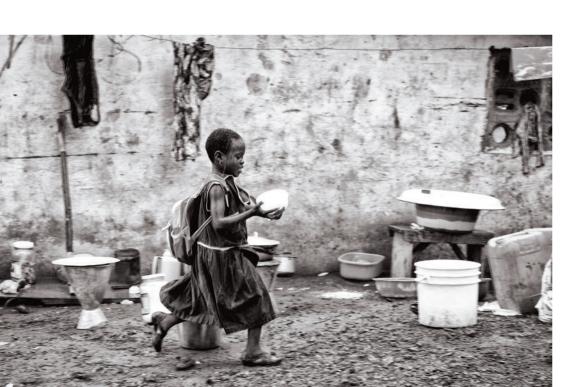
して言うと、 浸水

ろう も終わ っとシ 空腹を満たしたが 今ここに姿を現すことにし 突き落されてしまった。 うことだけは、 ようや ħ 水に加 な エラレ V 0 だろう。 た。 この く雨がやみ、 た住民は苦難の窮 え、 疑問 オネ共和国 皆は今日もら 元より苦 は だが つきりと言える。 0 明日はどうなる 答えはまだす 慈済 そこで慈済 [に戻って来ると カン たの 地 0 V 11 た食べ 人が 食事 生活を強 のどん底 である。 がまたき  $\mathcal{O}$ 物で のだ 配 人が 付

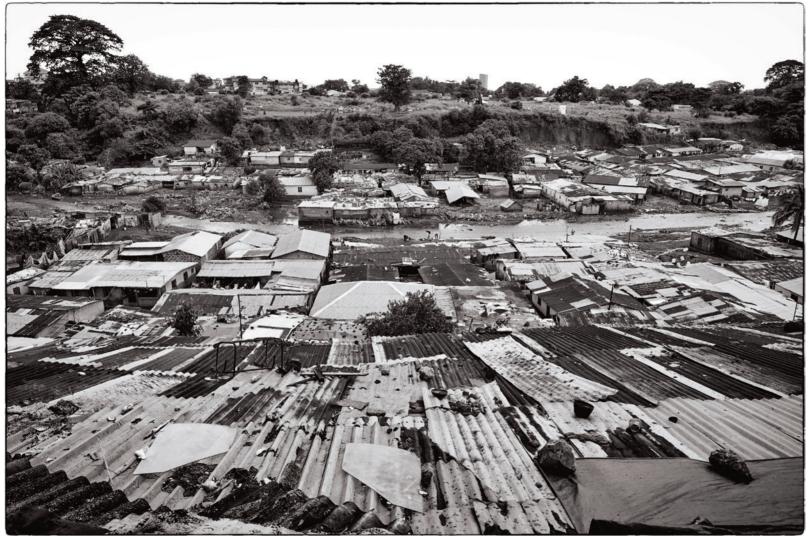
中、小女は嬉しそうに走りながら家路につく。●温かい食べ物がつめられた容器を持って、 雨の

> なっ 水は と海 も宿命的だと分かる。 町 が は て  $\mathcal{O}$ になっ 11 を縦 ŧ る。 カン とも 位置 断 0 て、 フリ して 海に 雨 水道や排  $\mathcal{O}$ タ 雨が降 度に ウン 流れ .出る 洪  $\mathcal{O}$ れ 都市全体が 市街 ば 水 12 山 なる くみに が か V 水路 5 0  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ Ш

いることを知った。 で惨め 水で被災 十二人と持病を抱えた患者も二人 産婦が四十 が二十九 な暮ら 1 した土 ・では、 人含まれて しに耐えて 赤ちゃ 地は 千 人以 何 んを産んだば カ所 いた。 上の 11 た。 住民が カン また、 中に あ

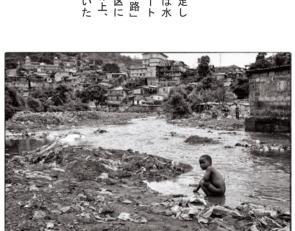


元より生活に苦しい地域であり、洪水の被害でさらに窮地のどん底へ突き落とされてしまった。サッカー場が二~三面入る広さに千人以上の住民が住んでいた。フリータウンのクラインタウン海岸に位置したカルバート貧困地区を見おろすと、



### 豕の前猪

カリータウンには下水道施設が不足してリータウンには下水道施設が不足には、水道も電気もなく、家畜と同居の上、は、水道も電気もなく、家畜と同居の上、は、水道も電気もなく、家畜と同居の上、は、水道も電気もなく、家畜と同居の上、は、水道も電気もなく、家畜と同居の上、は、水道も電気もない。 大雨が降れば水





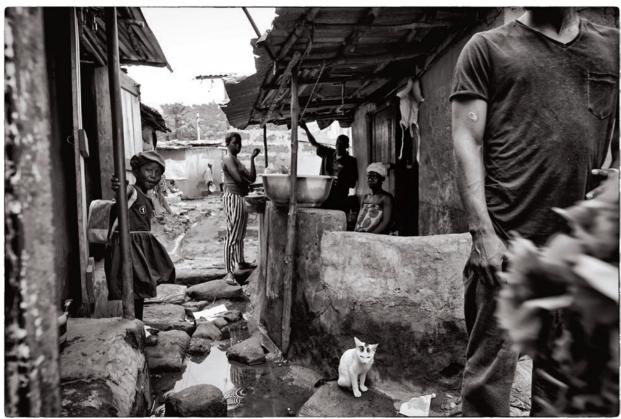
 49
 2018・1

 終済ものがたり
 48

タールヴェルトには低所得者と無職の住 人が多い。日ごろ隣近所で井戸端会議を して時間をつぶす。住居は隣とのすき間 がなく乱雑に立ち並び、曲がりくねった 路地を歩くのは容易ではない。こうした 町の構造が隣近所の間の密接な絆をもた らしたのだろう。(左図)狭い家では、若 い裁縫師が隣近所の衣服を直し、生計を 営む。(右図)







51 2018 • 1 慈済ものがたり 50

ぐ。カルバート地区の街角で見られる日常生活の光景である。子どもは道端でお菓子を売り、大人は肉体労働で生活費を稼



て、「して、これでは、子どもがとくに多いが、クールヴェルト地区には、子どもがとくに多いが、に載せてゆっくりと梯子から下りて来た女の子。屋上で干した衣服を洗面器に取り込み、それを頭 な社会問題となっている。 教育環境が整っておらず、 地区や国にとって大き



慈済ものがたり 53 2018 • 1 52

### 慈済ものがたり

# ・ハリケー

# で最も幸せな男

で皆によく休めたかと聞 て皆に早く寝るよう声をかけた。 報告の整 夜になっても、 理や被災状況の う声をかけた。その晩、彼は再び支部に泊まり、翌朝いつもと同じように笑顔災状況の調査と救援物資の配付などの準備に追われていた。黄済温は目を細め、慈済テキサス支部の集会所には灯りがともっていた。ボランティア達は救援活 いた。

支部は、 (々と変化する状況にも、 「辛い」と言わずに する黄済恩は、 支援活動を統括した。七十三歳の黄済温は毎日、 一カ月余りにわたる災害支援活動の任務について、自分の気持状況にも、「辛い」と言わずに「幸せだ」と表現した。「補給部 ービー はヒュー 、ストンに大きな被害をもたらした。被災地にある慈済テキサス 配付活動の調整や支援物資の調達など、 自分の気持ちを語った。 隊総司令官」 を自

った。 丰 ・サス 月 たが、 州を直撃する 上陸地点は州 旬、 ハ ハ IJ IJ ケ 都ヒ ことを天気予報で知 ンが ユ • /\ スト たらし F. た雨 では が テ

> 平均 量は、 年間雨 た 0 量の  $\mathcal{O}$ 半分に達 が日間で した。 E ユ ス  $\mathcal{O}$

テキサス州南部 水道は長時間 は地 の大雨を処理するこ 形が 平坦 一で あ

測され が去 なることは心得ていた。 とは不可能で、 0  $\mathcal{O}$ た後、 た。 基本的な準備 ボランテ 慈済ボランテ 災害が発生することが予 イア 取 は緊急救難セ ŋ かか 1 T が 0

### 0 前 の静 け Ź

丈夫だろうと思い テ 八月二十五  $\mathcal{O}$ キサ E 0 九 ユ 時過ぎか ス スト たボランティ 風が 旦 ツク なかったの ら大雨 では午後六時 ハ リケ 各自家に帰った。 ポ アと私 が 降 に上陸 で、 り始め、 は か 支部 ら七 もう した で 時

> ランティアに感謝の言葉を述べた。 目)ら幹部は、 救援活動が滞りなく終了し、黄済恩(右から2人 ートアーサーの被災者に現金カードを配付した。●慈済はハリケーン・ハービーの被害を受けたポ 各地から支援に駆けつけた慈済ボ (撮影/呉怡萱)



勧告が 地形 がな 家の 取ることしかできなか れたまま、 して V  $\mathcal{O}$ 裏にある湖 車を出 間 V 、ほど高 出 たことを知ったが、 は 1 す 7 n ボランティアと電話 [すことができなか 地域に住んでいる住民に避難 でに 11 て、 カン 11 った。 の水位は今まで見たこと 地域によ 三イン 翌 日 った。 テレ チ冠水 家に足止 って床上浸水 ビの報道で、 つた。 『で連絡・ を開 めさ 我が て け ろ

. る。 慈済テキ 面 被災後三日目、 なることを考慮し、 36111 サス支部 兀 イン  $\mathcal{O}$ チ 高 私は 建物 で設計 浸水 は、 水に浸か 救済 され ないよ ŋ セ な 7

ってもらった。

脚が 絡を 物が 員無事だった。 屋内に進水した家もあ カン け 損壊 あまりにも 取って安否を気遣った。 支部に寝泊まり 法師はボラン し、二十 強 数戸 カコ テ ったため、 0 が雨漏りし 1 たが、 て T  $\mathcal{O}$ た私 安否 七世 幸い 煙突から 達と連 · を気 た。  $\mathcal{O}$ に 建 雨

揮本 援チ 画を立 私達はそれ 浸水 が下 て始めた。 を立ち上げ、 ムを結成した。 なまでの が つ たらす 九月一日、 時間を利用 <u>-</u>+-ボランティ Ć, 動 人からなる救 け 緊急救済指 L Ś て ように、 |救済計 ア達は

害状況の視察に取りかかった。支部に集まり、支援要請の受け付けと被

## 全ての愛が功を奏する

上陸 S ら東に経路を取 気を一杯吸い 速三、四キロ どく浸水した。 ハ 陸 0 経路で海に戻っ した後、 リケー して豪雨をもたらした。 0 地区が  $\mathcal{O}$ 見物でもして ながらヒュー はテキサ 遅い り、 E 速度で移動 ポ ユ て行った。 え州 スト ト・ア いるように時 ストン港沖か ビクトリア ンと同様に したのち、 海上 週間後、 -サーに 一で水

> 持ち 資の じように 者層を重点 った で行った。  $\mathcal{O}$ で」 配付 ため、 リケ 範囲を横切っ  $\mathcal{O}$ 対象は一万世帯を超えたが 「直接に、 的に支援した。 原則 私達は重度災害地区 ンは二回上 で、 た。 重点的 尊 被災者 重 今回 に、 愛」 四百 の数が多か 感謝  $\mathcal{O}$ 支援物  $\mathcal{O}$ 低所 丰 態 0 口 気 得 同

法師の てはい して、 るように努めた。 て、 「慈悲には智慧を要する」 短い けな 寄付した 全てのお金を最 お言葉を、 人達の善意を踏みに 貴重 なお 私達 も有効に活 金を無 には 常 1 駄 用 思 う でき 12 11 使 出 厳

57 2018 · 1



●ハリケーン・ハービーに う被災者と慈済ボランティア。 の物資を配付した。 ハービーによって大きな被害が 互いに感謝の気持ちで抱き合 ートで、 (撮影· 現金カード 葉晉宏) など

選ばれる。 てい 皆自 教団 救済に使い Ľ る。 一体や民 支援金を寄付する先として、 腹を切って支援に来ているのを知っ ユ Ż だから、 間団体は、 各地からのボランテ の浄宗学会など多く 災害が起きた時、 慈済が募金を全て 慈済が イアは 真っ 、の宗

7 会社から募金が寄せられ、 あ に、 る善意の人は、 ア、 自分自身も同額 タイ、 会社 中 国 の名義で募金 の寄付をした。 台湾など十九 その人自身

の愛を見た時、 一杯になり、 涙ぐんだ。 私は感謝 の気持ちで胸 が

伝っ を傾 とを誇 スペ アが駆 付活動を何度も行った。 てくれた。 1 け 被済者を思いやり、 け リカ全土とカナダからボラ りに思った。 ン語が流暢な住民が物資配付を手 つつけ、 慰めた。 彼らは自分たちがしたこ 千世帯や二千世帯 べ トナム系の若者と、 現金力 彼らの が話に耳 ドを配  $\sim$ の配 テ

ったのは、 今回の支援活動が最も特別なも 私達は支部の近所に住むさまざまな の被災者に合わせて という證厳法師 「静思堂を有効活用 の指示が 小規模の あ す 0 るよう たか 0 配 にな 付 b

> た慈済 活動を何度も行った。 を誓った。 人が涙を流し、 の文化が人々を感動させ、 ボランティ 活動の中で見られ アになること 多くの

### 誰も が千手観音

なるが、 時期でもあった。 感じた期間 慈済ボランティアに この であり、 半年が 一番プレ なっ 番多く仕事をした て二十 ッシ ヤー 七年に を

私達  $\mathcal{O}$ 「千手観音」のチャリィティコンサ 準備に追われていた。 は 中国 ンが 身体障害者 来襲する前 の芸術団が演じ 本来なら普段 0 四カ月間

59 2018 • 1

しなかった。

慈善事業のために行う募金活動だった

千手観音となっ お金を寄付することを提案した。 大事だと開示し、 證厳法師は私達に、 、害支援の仕事は複雑で、 理解した。 人々は心よく 1) 戻しができることを伝え、 て人助けができると知 入場券を買った人達に代 代金を寄付した。 私達は何をする 今は 絶えず状 助 け べきか  $\mathcal{O}$ 緒に その 方 況 0 が

を受けた被災者の笑顔を見ると、本当に感じ、どんな挫折でも堪えられた。支援が変化し、とても忙しかったが、喜びを

いことも悟った。て、忙しい時こそ、心が乱れてはいけな今までやってきてよかったと思う。そし

支部 れたことに礼を言った。 記付活動 を聞 つさん に手伝 て 11 る と違うね」と妻に言 V のを聞い の期間 てすぐ彼に謝り、 いに来た。 中 て、 私 孫は が焦 ·四 歳 った。 って  $\mathcal{O}$ 指摘してく 「普段のお 大声を た妻が 私は

をや に申 、るだけ された仕事が は修行道場で、 これだけの人力や物資、 訳が立たないと思い である。 できなかったら、 私 私はやるべ  $\mathcal{O}$ 修行が足 資金を使 不安だ きこと りず、 證厳

自分の役割を決めていた。 援する「補給部隊の総司令官」 の人が を遂行 だ。 人々 って、本来すべきことができなか だから、 に対して申し訳ないと心配 十分に戦力を発揮できるように支 私は精 戦場にたとえれば、 一杯与えられ であると、 0 私は他 したの た使命 たら、

ューストンで一番幸せな男である。謝している。皆が言うように、私は今ヒを与えてくださった證厳法師に心から感この歳になって、私にこのような使命

うずたかく積まれていた。(撮影/黄友彬)ト市内の損壊した住宅から出された家具やゴミが●ハリケーン・ハービーが去った後、ビューモン

く積まれていた。(撮影/黄友彬)

61 2018 • 1

62

# ッケーン・ハービーで被災したテキサス州

# ケア活動で結ばれた絆

迫 つ ボランティアとし らな りが語 に記録 てきた時 つ る であろう。 力は しようと努めた。 つ も のことを てくれた た。

きく 航空産業、 丰 済金融センタ あることから、 られてい サス州 T の襲来で、 このような大都市 メリカ アメリカでは一 そして運河で世界的に知 0 ユ 市民が慌ててあちこち 港は世界で六番目に大 四大都市 と位置づけ メキシコ湾最大の経 ス . の は、 S られ リケ 11 石油や つ、 · 港 で <u>-</u>



住民は感激した。(撮影/陳欣悅) 慈済ボランティアの心のこもった愛の行動に災者の話を聞く鄭茹菁。

しただろうか。

もなく母親の笑顔はこおりつき、 着に着替えて喜んで遊んでい ぐさま娘の手を引いて家の中に走っ と微笑みなが れを母親は 上陸した当初、 八月下旬、 .池のような水溜りを見つけ、 ら見て クリエ ハ IJ 十六歳の 11 イテ た。 だが 娘が家の - ブだわ」 11 た。 間

 63
 2018・1

 整済ものがたり

てきたからだ。

な感じが ランテ ていた。 の恐怖 一髪で生き延びた体験を、  $\mathcal{O}$ 様子 目 0 イアとし がひ を語 前に でした。 彼ら Ū いた ってくれ  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 母娘 話を聞い しと身に迫 て、 は た。 人ひとりが この 7 私 忠 は 0 11 ると、 実に てくるよう メ よう デ 記 語 洪 録 る間 T 避 水 ボ

ンチ) が 増水線を越 ある女性は、 O $\mathcal{O}$ 居間 高さまで浸水したと言っ が五 して溢れ 家の近くに フィ 出 1 Ļ あ (約百五十セ 住宅地を襲 るダ た。 A の水

> 後から聞 の人 して被災 たちを救 幸 11 L V 女 なことに た話だ た の家族は全員二階の部屋に逃 助  $\mathcal{O}$ して て が ボ いたのだそうだ。 自分のボ そ  $\mathcal{O}$ に 助けら の家も浸 で近 所

に、 ら次  $\mathcal{O}$ らなかった。 か、 住民をどこまで避難させ 水が勢い  $\sim$ と場所を変えて避難し 政府や軍でさえ迷って よく迫っ まるで洪 水との てくる度に、 いた。 なけ 戦 れば安全な 11  $\mathcal{O}$ れ ばなな カン

達 八日 や見知ら 避難し始 間友達の家を点 め 8 てから落ち着くまで、 が 助 け 々と移り住み、 て < 'n まし た。 友

涙を浮 ました。 るお金を使 と自 か カ ら義援金 ŋ (まし 1宅に かべて言っ この義援金 た V 戻  $\overline{\mathcal{O}}$ 果たして ってきましたが と被災 配 た。 行  $\overline{\mathcal{O}}$  $\mathcal{O}$ 困 者 お 知ら かげ 0 0 せを受け 何 て 3 で私たちは V た時 W が 0 取 目 7 1) 蕬

連絡 台湾 慈済 所が 泊まる さんは、 ボ 見  $\mathcal{O}$ 所は ラ 0 ノンティ からず、 被災  $\mathcal{O}$ 戚が慈済の ありますか」 時 あちこちさまよっても避難 して連絡が取 涙が ァ カン 途方に暮れ ヒューストン支部に 溢 ら「大丈夫です れ とい てきたそうだ。 れない う電話を受 7 V 、家族を た時 カン

> と思 のです。 つけた 温さが して V ました」 身に から我が家に辿り着くこが ほ 私たちはもうこれで安全な いと依 沁 4 と言った。 た付 頼 さん た のだ は、 った。 「慈済を見 できた のだ その

ぞれ Nguyen さんが語った話では V にとって最も重要なの るそうだ。 も被災者なので、 食事 て 赤 V のところへ温かい +る。 だと言う。 字  $\mathcal{O}$ 水や電気、 被災地で援助してい ボ ラ ンテ Phuc その 気持ちがよく 食事を提供 は一日二食の温 台所もない イ Nguyen さん ア で 彼女は あ る人たち る Phuc 被災者 分か 自身 それ 7 カン い

Phuc 七日 気が 会を築きたいと話した。 供に社会奉仕の教育をし、 十字で温 って支援活 間も 慈済 0 皆お互 Nguyen さんはこれからも自分の子 11 た か  $\mathcal{O}$ ボランティ 配付活動 Phuc い食事の提供サ に参 に見知ら Nguyen さんは、 加することに を二日間、 · ア活 Ź 人たちな 動に参加した。 愛に満ちた社 ービスを五 あわせて した。 赤  $\exists$ 

られたも フ ザンビー 1 を配付する時、 慈済ボラ リピン 0 ノンティ クやジンバブエ、 など世界各地の だと説明した。 アは、 それらすべての 物 人々 資 アメリカの被 工 や現 ークアド 、から寄 金 お金は 力 ル

> 銭を全. 愛をボ 現金 涙 部 を聞 が止まらなかった。 ランテ 力 献 金箱に入れ とい F た ほ を手にした くう思い か T を通  $\mathcal{O}$ てく 玉 で、  $\mathcal{O}$ に被災者 れ てヒ た話 が を聞 には 5 心  $\tilde{\mathcal{O}}$ 感 ス カン 71 5

たち り越えら に滲んでい ける。 のその あるのだから。 なぜなら、 ボ **グランテ** れ た。 ような感動から流れ ŋ な 慈済ボランテ 目 1 1 ・苦労は・ アたち 0 は 前の 被災者を最 な 道は長い 0 11 肩 と 信 イア が 出 ŧ 被災者 の愛が した涙 が 7 い 乗 づ

(慈済月刊六一二期より

の抜粋 《捨得歡喜 (奉仕の喜び)》

> ◎文・葛済捨 訳 葉美娥

### 喜捨 の心を以 て人生を変え

た。それぞれの挑戦は魅力に溢れ、 役割を演じてこられたのです。医師、 もアメリカへ留学して医学を志しました。 葛済捨氏― 幼少時に吃音を発症 て慈済の専業ボランティアー た 彼 は 0 7 6 Ļ ます。 言葉がうまく話せなかった子が成長 「まるで四人分の人生を経験 どの次元でも 実業家、 マネ すべ 、て貴重 -その半生の中で四 コンサル したか な人 Ļ タ 人生の体 後貧し ン のよう そし つの でし

とこの本を皆さんにお見せすることができたのです 思います。 ることはありませんでした。 妻の慈喜に感謝 彼女の 百時間以上に しています。 ライター わたるインタビ 彼女が出版を励まし の茹菁さんの努力と配慮にもお礼を言 ユ | から。 てく にすばら れ なけ しい ħ ,文筆も. ば ۲ 加 0 お 本が完成 いたいと り

私は極めて平凡な人間です。 今まで大きな出来事などありませんでしたし、 ただそ

0

最も重要なのは、 医師 であ 二十年以上慈済ボランティアをしてきたことです。 実業家であ サ ル あ このような V)

慈済ものがたり

68



· 慈済伝播人文志業基金会

定価・250元 振り替え口座・

52経典雑誌

8 9 9 9 1 ご購入はこちらへ



https://store.tzuchiculture.org.tw/

立て方を間違えたの その最も重要な要因は即 しを充実させることができます 十歳にな たら全力で全う 九九八年に中国 生き甲斐に満ち タイミン その後気が 私は慈済国 グで出会うことができたので、 ではありませ た人生に てい 中 省が 際災害支援活動に参加 たの 车 くということに尽きます。 0 は、 危機 霜で被害 なるの 道を変えた時に考え直さないこと、 ŧ が訪 っと目標を大きく、 だということでし 立てた目標は皆自分自身と家族 さらに生命の価値を高めることになるのです。 人生の目標を失っ その結果は非常によ い感じが何もな 被災者に食糧と物資を しました。 た。 これほど苦し 自分の良能を発揮す む衆生も含めて立ててい まい 1) 配付 まし 0 0 のでした。 も大勢の支援者 ためだ しんでい たん目標を設 る人々

人生の転機は

も自然に訪れまし

苦し

しか

を達成させてくれる支援者であることがやっと分かってきて、深く感謝したのでした。 それか 0) 己中心的だっ 原因 だと思 た自分 0 て VI たので  $\mathcal{O}$ 生 すが 観を変えようと 震災後、 それ ま らの 人たち 前 は n  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 

69

すべきだと痛感しました。

「会ったのは

初めてでし

改めて自分の幸福に気づき、

もっとこの幸せを大事に

2018 • 1



お金では買えない人生の悟りであり、 らに福を植える」 ような 奉仕できるようになりました。 の深 んで得た貴重な宝なのです。 て 「福を知る、 感謝 から感動を覚え自発的に の念こそ、 という人生体験は、 福を惜しむ、 私が 慈済で この さ

70

の大愛モリンガ(Moringa)農場を訪問。イチ共和国ポルトプランス(Port au Prince)●2013年5月、葛済捨氏と孫慈喜氏はハ

と言われてい

ます。

私たちは物事に

他の一か二に目を向けるべきである」

りにならない

のが常であって、

その

「人生は十のうち八か九は、

思い

通

う方がよ て全力を尽く 11 のです。 結果がどうなるの か誰にも分からない 0) で、 喜 び 0 心で向き合

安らかになるし、 喜び み、 0 喜んで受ける」という気持ちでお互いに交流してい 心は自分が 人々の人生もも 選んだ気持ちであ っと円満になるでしょう。 り、 生観なのです。 けば、 皆がもしも この社会はもっと 「自発的に 取

から、 本当の理由 専業ボランティアを志願した当初、「正気とは思えない、こんなことを決めるなんて。 これからはお返しだ」と何も考えずに答えました。 は 何だ」とある弁護士 の友人に聞かれ、「私はもうたくさんもらったのだ

取り除き、 謙虚になるべきだと分かるのです。 ぶことができるのだから」と私は答えました。 年後また同じ質問を聞かれて、 勉強 真に清らかな喜び しにい くのだと気がついた。 が得られるのです。 報いを求めない 「初めは自分でお返しにい お返しと同時にいろいろな人生の道理も学 私たちは苦難に出会った後で、 からこそ、 くのだと思ってい 世に染められた考えを もっと たが

皆さんのご多幸を祈ります。 歩いてきた道を振り返ってみれば、 ています。 皆さんもこ 0) 道理を理解 人間の一生は心念が拠り所になるのだと私は深 自分の考えを見直してみてください

71 2018・1 整済ものがたり

72

### 訳·済運 蕭耀華

## 海外開拓者は刊行物 怒済を広めた

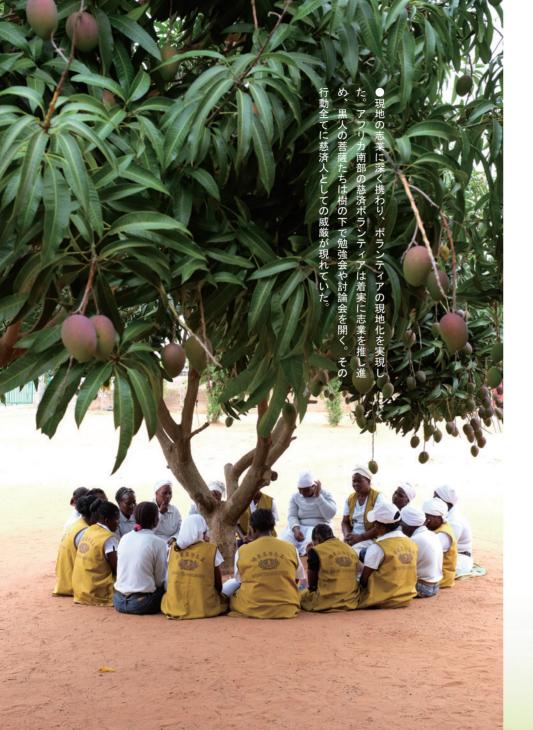
## 南アフリカ

## 暗黒の大陸に善の苗

治と情勢の混乱から逃れてイギリスに移 秋霞夫婦によっ アフリカ大陸の慈済志業は黄丁霖と呉 南アフリ カで商売してい て始められた。 彼らは長

黄丁霖は初め、 南アフリ 力 の工場を閉

> 志業を見習って推し進め、 に書いてあるように、台湾とアメリカの 鎖するつもりだったが があまりにも大きい故に問題が起きて 所を立ち上げ、 緒にヨハネスブル 呉国栄は「慈済月刊」と「慈済道侶」 呉国栄が責任者となった。 黄丁霖は還元すべき グに慈済の連絡事務 台湾人の友人と 二十数人のボ  $\bar{O}$



敬老院 段に広げ 1  $\mathcal{O}$ T 世話 と共に華僑が入居する った。 から始 め 少しず つ他 康  $\mathcal{D}$ 

百三十キ 行き、 来て事情を聞いた。 過していたので、 を紹介した。 た録音テー の刊行物とボランティアの体験談を語 既に台湾 必ず六十キロ デ 0 時にはコンテナに積  $\Box$ の慈済委員だったが、 ス だったが、 最高記録 プ ミスに工場を持 台湾から南アフリカに 以上の 航空会社 しかし、 は と「渡」を元に 彼と林天進 重量を余りに 出版物を持 んで送ること の主任が つ施 彼らが 彼も慈済 鴻  $\mathcal{O}$ 祺 も超 合計 慈済 出 · 行 7 7

> てくれた。 7 いることを知 0 て、 そ 0 まま載

するが 「あちこちで慈済の話をするので、 茶会を開くこともあった。 会員は三千 分の工場に帰るの と言った。 鴻祺は 時にはそのまま各地で慈済 飛行 人になったこともあります」 を降 は四、五日後であ りると工場に その場合、 った。 私 直  $\mathcal{O}$ 自 お  $\mathcal{O}$ 

呉国栄、 人は、 区で物資の配付を行った。 アを募り、 レディスミス 三カ所で同時 そして、 時に は危険を冒  $\mathcal{O}$ ダ 彼とヨ に 会員 バ ハ ハやボラ の張敏 ネ て黒 ス ブ シテ 人居住 輝 ル 0 グ  $\mathcal{O}$ 

鍋を置 ます。 こう説 所ブリ 全く異なっ ビルが立ち並び、家々にはプー ネスブルグの 人は る生活をし 非常に贅沢な生活をし 「南アフリカでは 0 クキ屋根 です。  $\overline{V}$ 明 か えをしのぐため て、 した。 た世界が広が 飛行機 ています。 町はとても美しく、 0 ・ウモ 「黒人は三つの 家な ひとたび郊外に行 貧富 口 から見下ろすとヨ のです」。 コシの粉を煮て の差が ってお て \_ に盗みを働 方、 います。 施鴻祺 り、 とて お金持 石 ル 0 が見え 豪奢 貧 上に 至る t ち 食 は な

南ア フリ カではほとんどの台湾 人は 強

> らです」 施鴻祺はそれでも貧困救済を続けた。「彼 はなか が何 らが強盗を働くの 命を落としていたかもし に 傷 者 遭 跡が つた。 かに 0 7 ·ある。 発砲され 11 張敏輝 る。 少し 施鴻 はあまりにも貧し 作の顔に たが、 でも 祺 れない。 0 しそれて 幸い 工場で は銃弾が iz しか いたら . も怪 は 守衛 カン す 我

中 0 で て 南 るように 生き、 V アフ め 九四年の選挙で黒人が政権を掌握 て、 \_ IJ 部 なった。 資源 力 1 の白人は庇護を失い、 は 間 0 以 配分は不 前 慈済の配付活動でも 黒 人は 白 人 抑圧と差別 公平だっ が 政 権 失業 を  $\mathcal{O}$ 

75

せ

び隣国 ボランティアと連絡を取り、 ナ分の古着を募り、 な反響を得た。 少なからぬ白人を見かけるようにな 衣類を募って、 のスワジランド しのぐための冬服を配付 施鴻祺は台湾からコンテナニつ ーストロンド プタウン、 翌年、 約二万人の貧困者に 彼は再び、 で配付した。 デ ンとヨ 十五コンテ 1 スミス及 ・トエリ 台湾の ハネス

祈福会を催 それと同時に に集まっ 平和裏に過ごす場面は温 の色が異なる人 水はその時に参加 蝋燭を灯 て夜 が

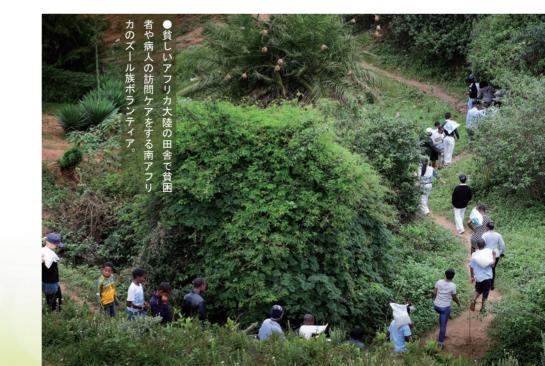
家庭の環境を改善するよう指導した。 貧困者の苦しみを理解し、 莊美幸の いた。  $\mathcal{O}$ のために裁縫クラスを開くことを 冬服の 世話を手伝っていた。 の通訳 学んで得た技術で経済的に 配付活動をするうちに、 バ で、 ンのボラン ストリ ズール族の女 彼は先住

百二十六カ所作った。それが縁でグラデ 彼女たちは五千 ける側になるよう教えた。 彼は女性たちに助けられる側から て職業訓練クラスは五百カ所に トするため、 人以上の孤児とエ 愛心野菜畑を それと同時に イズ 患 助 増

> 経て慈済委員の認証を受け、 イスたち数多くの 力での現地化 その後、 の基礎を築い 現地ボランティ 彼女たちは た。 慈済のア 深講座を ア が フ 誕

# 法随の伝承が乾いた大地を潤す

す」と言い の貧しい人々を菩薩道に導くよう念を押 「アフリ もっと開拓し、 で開 アフリカの慈済 かれた。 各国合同董事会が 人々 愛で以ても が も忍び 上人は感慨深 苦し がラ なく んで つと多く 花蓮 ンティ 、なりま げ



ボラ た潘明 スワジランド って愛を広めた。 ムを結成し 0 8 ティアと共に国際ボランテ 水がその話を聞 て執行長を引き受けること 九カ月以 とモザ ぐに数人の 内に彼らは九回出動し、 国境を越えた活動を始 ンビ て、 ク の田舎に行 ル 族幹部 フリカ イ アチ な

た。 出発 は、 大きな体をした した。 夜は随所で休息を摂り、 田舎道を歩 それ 村人が物珍しそうに集まって は苦行僧の V て貧困者や ズ ル 族 0 動に似てお 女性 を訪 なると た n

> 加わ った。 0 は 感動 ケ T  $\mathcal{O}$

 $\mathcal{O}$ ボランティア、 南 遠く台湾 出し したい んだ後、 フ IJ Š た その年に台湾に帰 0 文援に から 本を贈られ 文章を集約 現地ボランティ 力 と言っ 潘明 の慈済ボラン モザ 楊銘欽 た。 向 水に連絡 カン った。 潘明 た。 した Ľ から テ 彼女は 水 0 ク  $\neg$ 虹の た時、 はただちに て、 1 を伴って 「慈済月刊」 T の善行 注意深 慈済に の宝 高

オ イと知り合って結婚し、 は 台湾に勉強に来たデ 二〇〇八年、 1 フ

景が 彼ら が目に入 5 民 出  $\mathcal{O}$ は ると、 生活には間 モ をも愛し った。 0 か分からなか うらぶれて汚く、 E たが 彼女は夫を愛すると同 題はなか ク K 一戻っ どうや った。 0 て定住 たが 0 て支援 い光 た。

地 T T 地区でケ 五 法 力 Ź 口 が  $\mathcal{O}$ ボラン 活 いかると、 0 所に を始 テ が た。 あ 1 るマ ア 蔡岱霖 0 治指導 問過程 は 大統 丰

いるが、黒人ボランティアは「豊かな心」が物質地ボランティアと共に貧困者や病人のケアをしている。モザンビークのボランティア、蔡岱霖は現いる。モザンビークのボランティア、蔡岱霖は現の慈済の活動はアフリカですでに7カ国に及んで な富よりも嬉し いことを理解した。



になる人が出てきたことである。たことで考え方が変わり、ボランティアしたが、嬉しかったのは、慈済と出会っで様々な悲しみや苦しみを目の当たりに

てこん れが いけません」 帰るのです。 く開示した。 って上人にその話をした時、 慈しむと共に感服した。 済志業を続けることに対して、 しょうか?」 現地ボランテ ?『行経』 なに多くの と上人は彼女を励ました。 と言った。 彼女は深く考えず、 というものです」と慈悲深 外見上の苦相に囚われては イアが苦を気にせず、 人が苦しんでいるので 「心の富を持って 彼女が台湾に帰 上人は、「そ 蔡岱霖は 「どうし

蔡岱霖はやっと理解した。「まず、心の京かり、それは有形の富をたくさん所有現地ボランティアは貧しくても心は裕福であり、それは有形の富をたくさん所有であり、それは有形の富をたくさん所有

彼ら ボラ 田舎 きの 南ア た大地に新たな種を芽生えさせている。 ジンバブエの朱金財やレソトの陳美娟 らは千キ /ンティ まで出 下 フリカ で積極的に慈済志業を行ってい に互 アの養成を行うことで、 かけて善の念を伝承し、 ロも離れたボツワナやナミビ いに励まし合い、 の鄭愛堡など皆、 アフリカの 善による道 現地 る。

#### 北米

## 最も誠実な手土産

って行 ヒ ユ 責任者となった。 にアメリカ支部ができ、 がてサンフランシス が北カリフォ 北米大陸は慈済が最も早く芽生えた所 一九八〇年、 った。 -ストン、 一九 ルニアで志業を展開 = 黄思遠と李静念の夫婦 八九年、 ューヨークなどに広が コ、 黄思賢が 口 ロサンゼルス サンゼル 初代 ス、

商売だと思う人もいました」と黄思賢が誰も分かってくれませんでした。何かの「二十八年前、人に慈済を説明しても、

いなか に戻る時はいつも、 への説明に役立てていた。 言った。 物を持って帰るか、 つた頃、 「慈済」という名前 ボランテ できる限りの慈済 1 アがア が広 て、 メ ま IJ 人 0 カ 7 K  $\mathcal{O}$ 

が「慈済月刊 業が一割で慈済が九割にまでな スでも旅行でもい に行っても紹 ッシェケー 頃、 商 と彼が言った。 売しか興味がなかった黄思賢は、 ので、 月刊誌は法を伝授する参考書 スに入っていた商品 介することができ、 に 取 つも持ってい つでも紹介できるの 「この雑誌には人物、 0 て代わ れば、 った。 カタロ り、 ビジネ どこ のよ 初期 アタ ガ 事

ており、 立ちました」 慈済 の開示に を紹介す Ź よる理と法  $\mathcal{O}$ にとても が 役 0

とがあ たの た時、 ンテ 一九九二年の ニュージャ を聞い ィアを募集し始めた。 時から熱心に募金活動を始め、 誰か ŋ 故郷に帰ったような気がした。 た。 が 感謝祭で友人と会食 「慈済」のことを話し 彼女は台湾で寄付し に住 む 陳 林 L ボラ 7 て は

彼女は修行が足り 毎週、 立て続けに寄付を断ら 「慈済月刊」を持ち帰り、 ニュー ない ヨーク支部に車で通っ と分か った。 れた ため、 そこ

> 上人がどうやって随時、 した。 う」ことを体得し続けた。 女は訪問ケアから始め、 の念を抱い ているのか に台湾に帰った時、 終わると他の 知る」ことと「富者を説 二年後、 どこかの支部に着く度に、 た。 を観察するうち、心から崇敬 彼女は黄思賢、 人に回して、 アメリカに戻った後、 上人の行脚 「苦を見て福を 11 人の迷い 慈済を伝 李静誼 て貧しきを救 0 を解 는 — 彼女は お供を 0 VI

妻と一人の慈青 て台湾企業家の夫人たちを選んだ。 カナダの 移住した後、 何国 慶は台湾で慈済 (慈済の学生ボランティ 最初に募金の 対 象とし 当初、

状況だった、 しがあち と共に月刊誌を携えて訪問 こちで歌って回る」ような と彼は笑った。 したが

に資 て弱者を支援した。 ショ カナダでは慈済ボランティアはサル 業を展開し、 「還元して初 いう言葉に賛同した。 これらエ 皇金援助 ンアー リート移民は上人が教え めて人から尊重され 現地社会と接点を持った。 現地 ・と協力し の 彼らは精一杯、 ボランティアとし て フードバ る ンク 志 る

で以て奉仕し、 を模倣した。 そし て、 慈済月刊 ボランテ 配付する時は深々と九十 1 \_ カン T が笑顔と喜 5 各国  $\mathcal{O}$ 人 CK 女

> 度の ら支援を受けられるようになっ することで、 えてくれたことに対 お辞儀をし、 白人は尊厳を持 相手が奉仕 して謙虚に感 つて 0 チ 華 ヤ 僑 ン 謝 ス カン

慧を使 になって ボランティ ことが 国慶は言う。 以前、 って困難を乗り なか 新移民は現地人から重視さ つったが アは政府 それが と言 今では った。 公認 「私たちは善意と智 越えました」  $\mathcal{O}$ カナ 新移民の ダ  $\mathcal{O}$ と何 模範 慈済 れ る

して 済志 ロの時、 きた。 業が国際社会で認めら メ IJ カ慈済 二〇〇一年のア 慈済は数少ない支援を認め ボランテ 1 ・メリカ れ アも るよう努力 極 同時 力 多 慈

ランティア 国際支援  $\mathcal{O}$ ほ 0 カン が出現した。 重責を担 中 米や った結果、 シ 工 ラ レ 各地でボ オ ネなど

は社会に出ると、 書学校」 を卒業  $\mathcal{O}$ オ スダ 給料は往 した。 修道女会の 1 フ そこ 々に は  $\mathcal{O}$ 「主イエ 慈済 卒業生 が 支

> ため を手伝うことを決意した。 〇 四 慈済から救済物資を受け取  $\mathcal{O}$ が 年 もらえる。 チ 慈済に就職し、 ハリケ 0 再建を支援し、 ンで被害を受けた 彼女 0 てい の推進 は慈済 る

いた。 し合 も重要な役割を果たし . る。 現在、 総監督を務め、 て成り 彼は ボランテ 黄思賢は全世界慈済 各国 <u>\\</u> 0  $\overline{\mathcal{O}}$ 1 アの 災害支援 各地で支部 1 るが、 てい 成長に付き添っ ることに気づ は 互い の活 ボ 慈済月刊 ラ 動 に影響 変指 テ

二〇〇四年の 1 ンド洋大津波を例にと

持っ に成功 た。 を計画 れば、 済ボランテ よる災害が起きた時も、 ミヤ て来た て政府の役人に慈済が過去に した時、 中 た 国語が分らなか の報道を説明する 1 は 記録を説 マーでサイクロ は、 アが災害支援に スリラン ボラン 月刊誌で多く 明し ティ 力 ったが、 で たから 7 大愛村 T  $\mathcal{O}$ 訪 んは月  $\mathcal{O}$ n で 写真で · 役 立 国で支 建設 刊 ること ある。 スに |誌を 建設  $\mathcal{O}$ 0

もたらしたが、感染が終息に援する国の一つである。エボ 力して支援とケアを続けた。 アは米の配付を行うと共に、 西アフリカのシエラレオネはア 終息に向かうと、ボランテ。エボラ熱は大きな被害をレオネはアメリカ慈済が支 現地の慈善団体と



建設、病院で負傷者の目何度も災害支援に訪れ、 建設、病院で負傷者の見舞いなどを行い、彼らに何度も災害支援に訪れ、物資の配付や学校の支援民は困窮していた。アメリカ慈済ボランティアは●ハイチはハリケーンに続いて地震に襲われ、人 温かさを届けてきた。

理解することができた。

#### 文章の が見えた 合間に 師弟の寄り添 つ た心

材もお金もなく、 らが慈済志業を推 は経験豊富な開拓者 初期に海外に 慈済月刊 移住 は五十周年を迎えた際、 し進め あ した慈済ボラ E るのは信念と紹介に なった。 ようとしても 最初、 シテ イア



た。 人の 使う「慈済月刊 理念を伝え、 だけ 大衆に参加を呼 で、 誠意で以 び て上 カン H

え、 て、 心深く事業を進め 互 いようになったが の弟子に求めた精神である。 「自力更生、 いに助け なり 0 道だ 合い Ó 実だけ 0 現地で賄う」 たが た。 台湾の 見知ら がそこにあ W n 本部に依存 ぬ で来 返ると霞は 環境では用 は った。 Aた道は. 現地 が海 しな で 全 は

児 なっ と慧命の た時 拓者 ように、 糧  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 原動力でもあ 6 心と成長の養分は法随精 成長してからも目に見えな 来てお り、 0 正 しそうに 新生 神

> る。 1) その緒が母親と繋が 0 7 11 る  $\mathcal{O}$ であ

と彼は説明した。 Ŕ 方向 思賢が言 師匠に近づくことができるのです」 のメディアを通し きなくても、 「外国では上人のそばに その心に追随することができるのだ、 であり、 のである。 を通して呼びか け 理」 れば 0 書籍やテレビ、 弟子は自分の ならな を実証 上人が教えてくれ 師匠の て、 その気さえあ け そば そ 行 1 三宝」 動する中 にい れを各種 ネ ることは 人々 ット なくて を悟 . る れば、 と黄 を開 のは 7 で 1) X

#### 歩も離 、愛で情 のあ れず大地を護ろう る衆生 に 付き添

この世は心温まる美しいものになるでしょう。 大地が汚染され、 滴の愛が累積することで、 難多き世の中で、ただ手をこまねいてい 大愛は続き、 人々の心が通じ合えば てはいけません。

午前二時十四分) 午後一時十四分 の大地震が発生しました。 メキシコ中部で、 にマグネチュ (台湾時間九月二十日 現地時間 被害は甚大 九月十九日

栄が無に帰した苦しみを、 えたらよいのでしょう。 くの家屋も損壊 古い建物は瞬時に崩壊 しました。 住民はどう耐 日までの繁  $\mathcal{O}$ 



資を得られるようにしています。 着などの支援物資が街頭に乱雑に積み 地から送られてきた食品、 災地に入り、 被災者が本当に必要とする生活物 世の菩薩は遠路も 付活動を行う時、 メキシコ、 実地調査をしている時に、 ように、 支援の計画を練りました。 グアテマラから次々に被 のを目にしまし 台湾、 現金カー アメリカ、 現地の負担を 厭わず, 日用品、 F ランテ

被災後、

困難が

0

り越えられな

家

方法は、 でした。 現地 増員 の心を啓発し、 んでした。 を見 に記録が しても足りませんでした。  $\mathcal{O}$ ンティアは知 人たち つけ 被災者を落ち着かせた後、 心要で 慈済ボランティアをいくら つるため らも慈済 その愛を力とすること って  $\mathcal{O}$ いる人がおらず、 ことを知 実地調査 唯一の いりませ

住民に被災世 第に住民は て配付名簿を確認 慈済ボランテ る手伝い をし 自分も被害を受け  $\mathcal{O}$ 1 てもら 人数や ア すると共に、 は \_\_ 、生活状 軒ず V まし 0 い況を記 調査 熱心な て苦し

だと気づきました。り、人助けできることは、幸せなこといが、もっと苦しんでいる人たちがお

ではな してい なりま 自分たちを信用 査ボラン る た人 ボランテ カン 人の ま 5 テ カン **グランテ** た。 真摰 ちは ボラン 震災 ア け T 0 0 だだだ 現地 して る側 が カコ 訓 愛と友情を感 アの 5  $\mathcal{O}$ 増え続け 練 V の見物に VI  $\mathcal{O}$ 派を受け まし る 人たち 1 E 力月 か ア な どう ス は た が、 (余り、 るように 被 0 -を着た 助けら ただけ 外国か **5**55 7 カン が

した

い信仰 つの 法を受け イア キシコ支援 慈済は五十数年来、 が 救難をし まだ配付 か慈済 親密 入れる 心 0 て  $\mathcal{O}$ が 状況は初 てきまし 0 発祥 ように . 始 ま て ŋ 数百 0 る人たちも慈済 く説 0 たが な て 8 で n V て V たため、  $\mathcal{O}$ ある台湾 ま な 0 ボ 今回 玉 ラン 時か K で  $\mathcal{O}$ 堅 テ b メ

の心を広げ、憂いと苦悩から脱け出し町り知れない法と真摯の愛であり、人々最も価値があるのは物資ではなく、

りとい たのではないでしょうか 苦を楽に転じた力が人々を奮い立たせ せることが る 的 くう無形 しました。 に欠乏した人たちに安らかさを 産を失いましたが、 にも執着 朗らかな笑顔になるのを見て、 できるの  $\mathcal{O}$ せず、 彼らが頭を上げて胸  $\mathcal{O}$ です。 富を昇華させ 再度立ち上がら 愛の思 被災者 は

社会の汚濁を浄化しよう

今年の十一月、フィリピンは台風ハ

災沙の生活を援助したと同時に 光景です。 村を建設 み立て式 の心を慰めました。 に被災地を訪れ、 し、十三カ国 ア 工 W が紺と白の ン被災四周年に当た 「一寸ず んで連結 の写真を見ると、 0 オ 返り 連結タ 住宅を送っ  $\mathcal{O}$ 被災地を復興させました。 つ敷きつめて大地を護る」 タ 王 É 慈済 イルを敷 制服姿で、 被災者雇用 1 がデラン た。 次い ル て、二つの大愛 は隙間に 慈済ボ 、で台湾 り、 VI テ 老い てお 1 テ 制 アが 町 グランテ いから組 .も若き 雨 彼ら 水が で被 次 Z

> す。 浸透するため大地は呼吸ができるので

ティアに投入して、 活を送 人生に変わっ って 災 ています。 、ます。 者 は、 戒を護 で  $\mathcal{O}$ は ŋ 安 が 善を行う 定 ボラン

んで責務を負ってい フィリピンの慈済ボラン まさに から離れ  $\mathcal{O}$ 中に なる」ことの表れです。 れ 「大愛で付き添えば情 互いに引き継 ず寄り添 .ます。 この四年来、 ティ 1 力を結集 できた アは  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 准

4りのないお年寄りをケアしていま現地ボランティアは普段は弱者や身

月 五 家を失いテント 実地 日に 十戸 ガ町 調 起用されました。 の仮設住宅が建てられ、 查 で ī  $\mathcal{O}$ 地震が て物資 · 住 ま 月 オ 発生し を配付 いの被災者には、 モ ツ しました。 ク近 素早 <  $\mathcal{O}$ 

らでチ ルに貯金 神に応え この 9 自分の コ て、 地震災害支援に寄付す したお金を持っ 住民は それ 落成式 農作物をボ ボランテ 12 感動  $\mathcal{O}$ 「竹筒 · を開 **グランテ** て た村 来る ペ ッ 1 歳 ア 月 んはそれ トボ アに は を で

> は人 適の 人の 遠方でも支援することができるのです。 な力でも軽視してはならず、 慈済が ナ  $\mathcal{O}$ 力では 情を連結させることなのです。 て 水も 、天下に 永遠 るの 復興支援を行う際、 大河になる」ように、 どうにも 粒の や欲念を満足させるため、 目を向けると災難が多く、 は の情を啓発 カボチャ 心 米も集め のリハビリです。 なりません。 などを持ち寄 ń ば俵に、 最も重要 どんなに 世界中 わずか 災害

争

合うことか

ら起きます。

 $\mathcal{O}$ 

が累積すると、

災い

の発

す。 になり、天地の間に充満してしまいま 端となり、わずかな汚染の集りは汚濁

寛大に、 法は 敬虔な心を軽く見ず、また、その力を 人心が変われば、 浄化することが 善意を蓄積して清流にすれ かにしないことです。観念に目覚め、 人心か の欲を抑制  $\mathcal{O}$ 自分の心を護って人に対しては 0 から手を 苦難を取 濁気を薄くすることができ 対しては一歩下がること して菜食にして殺生し できるのです。 生態も変わります。 っ り け 除 ることであ く最も ば、 自分の 汚濁は 良

> はあ 立派な人です。 し遂げられるの 0 できれば、 です。もし、 ŋ ませ な事を成 ん。 いであれ 生活の 遂げ 考え方を変えて、 争 中では ば、 る V 0 が それ が一番難し 起きること 当たり前 は実に

る以上、 えて で情の 7 りません。 同じように天と地の · る時、 集い、 大地を護ろう」とい 年 ある衆生に付き添 歳末祝福会 天下に関心を持ち、 生命 どこかで私たちを必要とし 愛を伝えてい 0 意義を発揮する心構 間に生を受けて  $\mathcal{O}$ テ かなくてはな 11 うも 7 寸歩も 大愛を携 は  $\mathcal{O}$ 大

なることができます。に立った時、人々は良きパートナーにえで奉仕し、お互いの心が同じレベル

の世は末永く安泰になるでしょう。でのではなく、環境保全に尽くし、すべての命を尊び、少しのずれもなく、すいがあれば、この世は末永く安泰になるでしょう。

体得すれば「道理」に行きつく実践して行動することで

ヨハネスブルグが暴風雨に見舞われ、十月初旬、南アフリカ、ダーバンと

者が多く、 被害が発生しました。 いに行きま 、つかチー した。 ボランティ ムを編成 ۲ アは て被災  $\mathcal{O}$ 地方 ただちに 地 は 貧困 見

心させ、 とができるのです」 害が起きれば、 ず、ケアに行きました。 寄りボランティアたち な上、大雨の後、 貧困者が 普段でも歩行が困 より多くの 少し努力して困難を乗り 住むこの 真っ先に駆け 崖崩 人たちを支援 と言った。 地 彼女たち は、 難な現地 れ 方 が は 発生 苦労を恐れ 交通 つけ するこ  $\mathcal{O}$ が お て 不 安 便

心いやりがあり、責任感のある彼女

へ行って寄り添っているのです。人に与えるために、堅い志をもって、人に与えるために、堅い志をもって、は、お米や食糧も、飢餓に喘いでいる

彼女たちの交通手段は困難を極め、 大部分が徒歩です。最も遠い所では慈 済ダーバン連絡所から七十キロ離れた に行った時、全部で五百キロ以上の道 を踏破し、二百世帯に毛布と米を配付 を踏破し、二百世帯に毛布と米を配付

ィアに抱きついて訴えました。ボランある若い女性がおばあさんボランテ

ことは ンティ 彼女は言いました。 れたことに、 がら T アが困 なく、 それで涙を流したのだと 人生でこれほど感動 **|難を乗** で 害は過ぎた り越えて訪 ま 0 た。 れ 5 した ボラ

意志も すため ることができるのです。 自然に周囲 は ア 見返り フリカ本土の 0 て あ ŋ 危険な道を歩 を求 木 るのです。  $\mathcal{O}$ 難を排し 助力が得ら めず、 がボラン 生命に そして、 力もあ (V て苦難の て使命を果た 山を登り、 ティ 法悦を留 願を達す るゆえに ・アに 彼女た 人に寄

ているのです。

は仕方のないことです。 きつき、やり終えて心に感じるものを 等ることができました。しかし、何も でない人が、永遠に体得できないの でもない人が、永遠に体得できないの

乗り、 行く時 変わ 方言に T 彼女らが支部で説法を聞きに くことを止めません。 九人乗りのバンに二十数 わります 湾語 りましたが、 閉まらず、 訳 から英語、 が してい 彼女らは く過程で内容 落ちて怪我 道心 そし は堅く、 純

勤勉な生活を送っ 「富」とは財富、 人生は貧しく、 富者なのです。 しかし 般に言う「貧」とは物質の欠乏で、 形の 人は貧しくても志は豊かで、 ある財産があ 「富の中の貧」というのが それに比 名利を享受することで て いるその生命は いっても、 して「貧の

苦難は貧しい 富める人も憂い 7 ふためきます。 人だ や恐怖など諸 け に あ 喜 る び  $\mathcal{O}$ は多く で Þ  $\mathcal{O}$ な

らの せられます。 るを知る敬虔で純真な態度には感動さ フリカ本  $\mathcal{O}$ 物質 自分の (瞋癡の 時間も ても、 を有 土 る  $\mathcal{O}$ 心 体力も惜しまずに 食を心配しません。 ボ て  $\mathcal{O}$ **ゕ**ランテ がなく、 です。 VI でも物が る カン 彼女ら らでは 1 少欲に T あ  $\mathcal{O}$ 喜び なく、 ると分け  $\mathcal{O}$ し人を助 生活 彼女 て足 は 富

実直にして諂いなく柔和と忍辱心

群衆の中で行う「六度」(布施、持戒

忍辱、精進、禅定、智慧)、日常生活の中で行う「四摂法」(布施、愛語、利行、中で行う「四摂法」(布施、愛語、利行、市心、最いことではありません。しかし、最も重要なのは「柔がなものにし、常に柔和な態度で接やかなものにし、常に柔和な態度で接めかなものにし、常に柔和な態度で接めなものにし、常に柔和な態度で接

るの 辱は心の三毒の一つである瞋恚が起き 在此而接法」とあるように、 有修功徳、 避けられ、 《法華経 のを保護してくれます。 を防ぐと共に、 人々が安心し 柔和質直者、 如来寿量品第十六》 慧命が傷 て菩薩道を歩 則皆見我身、 柔和と忍 つく で「諸

柔和以外に、「質直」も必要で、「心 正しく諂わず」ということです。メキ シコのように現地の人が外国から来た き薩を信頼したのは、慈済人が質直な 心と無私の愛、寛大な包容力を持ち、 一心に彼らの苦難を取り除こうとした

が現れ 人生 イア 菩薩  $\overline{\mathcal{O}}$ は現地で人間性の純真さを体得し、 るのであ 無常を理解することで、 の心とは その 種々 心にある質朴善純の本性 質直 0 それ 心です。 善行を喜ん が仏心な ボランテ んで行う

> を待 さず奉仕 の菩薩が のさらなる精進を願っています。 となることができる  $\mathcal{O}$ 0 て 中 す 良能を発揮してい ではまだ多く ますが、 れば、他人の人生にお その  $\mathcal{O}$ 同じ時  $\mathcal{O}$ っです。 、ます。 たちが支援 すか 皆さ いて

(慈済月刊六一三期より)

無私 志業を推進する力は無 の奉仕精 神 は至上の宝物です。 形 の心から来ています。

至上の宝物です」 仕している全世界の慈済ボランティアから来ており、その精神は なります。慈済志業を推進する最大の力は一人ひとりが無私で奉 精神と慈済宗門の方向から来ており、一般企業の運営方式とは異 の中で次のように述べた。「慈済志業の推進パワーは静思法 二〇一七年九月九日、證厳法師は医療業界からの来客との談話  $\mathcal{O}$ 

来たものであり、有形の金銭で計ることはできません。 「慈済に大きな力があるというなら、 それは無形 の人 慈済ボラ  $\mathcal{O}$ 6

ば、 だけ奉仕しているかは気にしません。苦難に喘ぐ人が助けられれ ンティアは寄付で護持するだけでなく、全身全霊で奉仕し、どれ 證厳法師によると、静思精舎の常住衆は自力更生で生活してお 喜びに浸り、 感謝します。慈済志業の全てが愛なのです」

ている。 女らは真の修行者であり、全ての慈済ボランティアの模範です」 衆は苦労に耐えながら真心で奉仕し、私欲は全くありません。彼 全世界の慈済ボランティアが精舎に帰ってきた時の生活を支え り、慈済の財務とは切り離されているが、慈済の後ろ盾となって と言った。 かな蓄えを寄付して災害支援の先頭に立っている。 世界のどこかで災害が起きた時、彼女らは率先してわず 「精舎の常住

全世界の慈済ボランティアに明確な方向と学ぶ目標を示してい と證厳法師は言っている。 の中心は静思精舎であり、 常住衆が精神の模範となって、

◎文・釋徳忛/訳・

#### 冬文衲履足跡



# 精勤護淨(仏僧の供養を勤行する)

共にした。 ているのを見て、 一挙手一投足全てが大自然に敬意を払い、誠意で以て人に対応し 台中の慈済ボランティ 厨房での食事の準備や野菜畑での仕事で、師匠たちの 仏法に溢れた生活を体験した。 アが 精舎に帰って、常住衆たちと寝食を

前に自分が食べてはいけません。これは誠意を精勤護淨という行 され、捨てられた野菜などを整理するのです。 《地蔵経》を引用して、「僧衆のために食事を用意する時、 いで表したものです」 態度で敬い、僧衆が食事を終える前に米を洗った水や地面に放置 九月十日、 證厳法師は台中の慈済ボランティアと談話した時 仏や僧を供養する

たちに対して敬意を払ってきたため、行動の中に尊敬の心が現れ 同様に常住師匠たちが長年、 同僚や精舎に やって来た 人間

ており、 師は「薪を担いだり水を運ぶのも禅です。 修行しているのである、と證厳法師は言っている。また、證厳法 ボランティアが常住衆と生活を共にすることは正に「生活禅」を って実行しなさい」と念を押した。 く時、自分の心の中の煩悩という雑草を取り除いていることに思 い至ります。 精舎全体の生活を担当する時、常住衆は菩薩を供養する心で働 常に敬う心を持っているため、 精舎でこういう体験をしたなら、それを家に持ち 無間修、 無餘修、 煩悩が入り込む余地がない。 尊重修」を達成させてい 野菜畑で雑草を取り除

て』、その道を切り開き続けます」 く人たちが切り開いてくれます。また、私たちも『再びやって来 作るのです。その道はこの人生で作り終えられなくても、 進し、広く呼びかけると共に人々を伴って、後の人のため 「広く開かれた菩薩道は自他共に利します。 道を切 り開 後に続 に道を 7 前



循環し、前を行く人が成仏するまで、私たちは菩薩道を歩み続 来仏は道を切り開き、作って行く者であり、際限のない生の中で る者と後世で仏に学ぶ者は全て未来仏である。 宝仏は古仏で釈迦牟尼仏は現代仏である。そして、法を聞いてい の扉を開けて初めて多宝仏を目にすることができると言った。多 ており、自ら重責を担うことを願うべきです。私たちのような未 證厳法師は 次は私たちが成仏するのです」 《法華経 見宝塔品》の中の多宝仏塔の話をし、 「塔の扉は開かれ

すればいいのです」 既に進むべき方向を私たちに示しています。だから安心して前進 で慈済志業を推し進めることが道を切り開くことなのです。 「この数日間だけ精舎で精進するのではなく、 帰ってから地域 仏は

(慈済月刊六一二期より)

# 慈済大事記十二月

訳・済運

1 2 0 3	1 2 • 0 2
して、学生や地域住民375人に奉仕した。回の施療活動を行った。慈済ボランティアと医療人員合計48人が参加回の施療活動を行った。慈済ボランティアと医療人員合計48人が参加◎慈済ミャンマー連絡事務所はヤンゴン市オンミエズ寺院学校で第一	録を始めると共に、現金カードを配付した。た。慈済ニューヨーク支部は12月2日から支援を要請する被災者の登た。慈済ニューヨーク支部は12月2日から支援を要請する被災者の登た。慈済ニューヨーク東の住民はニューヨーク州やフロリダ州に引っ越しアメリカ領プエルトリコは9月20日、ハリケーンマリアに襲われて大

	1 2 •		1 2 •	1 2
l )	0 7		0 5	0 3
後、毎年年末に被災地のフィナレエミリア市を訪れ、歳末祝福と祝福◎ヨーロッパの慈済ボランティアは2012年のイタリア北部地震の	<ul><li>○窓済基金会は0910メキシコ地震の被災者に対して、本日から</li><li>○窓済基金会は0910メキシコ地震の被災者に対して、本日から</li><li>緊急災害支援の配付活動を展開する。7日から9日まで、メキシコ緊急災害支援の配付活動を展開する。7日から9日まで、メキシコ緊急災害支援の配付活動を展開する。7日から9日まで、本日から</li><li>3888世帯に物資と毛布を配付する。</li></ul>	◎インドネシア・アチェ州ペラクティム地区で1日、豪雨によるダム	区を視察する。  区を視察する。  区を視察する。  区を視察する。	注射針」が選ばれて金賞に輝き、「薬錠剤処理器」が銀賞を獲得した。余りの作品の中から「巻き込み式輸血加圧システム」と「連動式安全「2017第十三回韓国ソウル国際発明展」に参加し、30カ国600の慈済科技大学看護科チームは11月30日から12月3日まで

2018・1 窓済ものがたり

<ul> <li>○ドイツ イタリア オーストリア シンカホール 台湾</li> <li>○メキシコ地震慈済災害支援チームは前回の配付活動に参 た。また、ボランティアは瑠璃の「宇宙大覚者」仏像を前 た。また、ボランティアは瑠璃の「宇宙大覚者」仏像を前 のプレドラグ・マリンコビッチ氏に寄贈した。</li> <li>○ドイツ イタリア オーストリア シンカホール 台湾</li> </ul>	1 2 1 5
<ul><li>災者に現金カードと毛布、清掃道具などの物資を配付せいる16日の間、ロサンゼルス・セルマ市地域支援センら16日の間、ロサンゼルス・セルマ市地域支援センで森林火災が発生し、慈済アメリカ総支部のボランテ</li></ul>	1 2 1 2
アメリカ南カリフォルニアでは12月上旬から立て続けに	
ボフトラ市の配付世帯が最も多い。 ボフトラ市の配付世帯が最も多い。 ボフトラ市の配付活動を行い、5885世帯を支援する。 メキシコ地震慈済災害支援チームは11日から14日まで並	1 2 1 1
IDE国際発明・設計展」に参加し、「天使の涙(藻)培養装置」と が行われた。	1 2 1 0

 109
 2018・1

 整済ものがたり

	世帯に物資と毛布を配付する。メキシコ地震に関する慈済の緊急災害
	支援配付活動はこれで一段落する。
	ドイツ、イタリア、オーストリア、シンガポール、ボスニア、台湾か
	らの慈済ボランティア14人は16日からセルビアのボランティアと
2	共に、オブレノバック、キキンダ、ソンボール、アダセビシ、プリン
1 2 3	シポワチの5つの難民キャンプでニット帽やマフラー、冬のスポーツ
	ウェアなどの防寒物資の配付を行うと共に、当国で初めて歳末祝福の
	活動を行った。
	台風26号がフィリピン中南部を襲い、洪水と土砂災害を引き起こし
	た。オーモック慈済大愛村も酷く浸水し、1000世帯余りの住民が学
1 2 1 8	校や衛生所に避難した。パロ町の慈済大愛村から来た20人のボランテ
	イアはオーモック市に出向き、被災者への炊き出しを手伝った。タクロ
	バン市とマニラの慈済ボランティアは19日から支援活動を展開する。

# 「慈済ものがたり」 をご自宅までお届けします

日本に在住されている方は慈済基金会日本支部にご連絡ください ご自宅までお届けする場合の郵送料は年間NT\$120。 2冊以上ご希望の方は読者サービスセンターにお電話ください 各慈済連絡所では無料で配布しています。(月1回発行。 1 ##

上記の郵送料は台湾国内に限ります。海外または離島の方は読者サービスセンターにお電話ください。 読者サービスセンター電話番号:02-28989000内線1165郵送料のお振込み:台湾郵局口座:19905781 口座名:慈濟傳播人文基金會

インターネットでもご覧いただけます。 ⊃ C → http://web.tzuchiculture.org.tw/index.php?s=7

# の送付





#### 各国の連絡所

本部
971 花蓮県新城郷康樂
村精舎街 88 巷 1 号
TEL:886-3-8266779
886-3-8059966
志業中心(静思堂)
970 花蓮市中央路三段 703 号
TEL:886-40510777 # 4002
0912-412-600 # 4002
7912-412-600 # 4002 花蓮慈済医学センター
970 花蓮市中央路三段 707 号
TEL:886-3-8561825
玉里慈済病院
981 花蓮県玉里鎮民権街 1-1 号
TEL: 886-3-8882718
関山慈済病院
956 台東県関山鎮和平路 125-5
号
TEL: 886-89-814880
大林慈済病院
622 嘉義県大林鎮民生路 2 号
TEL: 886-5-2648000
台北慈済病院
231 台北県新店市建国路 289 号
TEL: 886-2-66289779
台中慈済病院
427 台中県潭子郷豊興路一段 88
号
TEL:886-4-36060666
FAX: 886-4-36021123
慈済大学
970 花蓮市中央路三段 701 号
TEL:886-3-8565301
FAX: 886-3-8563604
台北支部
106 台北市忠孝東路三段 217 巷
7 弄 35 号
TEL:886-2-27760111
FAX: 886-2-27761244
慈済人文志業センター
112 台北市立徳路 2 号
大愛テレビ局
TEL:886-2-28989999
静思人文
TEL:886-2-28989888

アメリカ 香港 総支部 (San Dimas) TEL:852-28937166 TEL: 1-909-4477799 北カリフォルニア支部 フィリピン Manila TEL: 1-408-4576969 TEL:63-2-7320001 ハワイ支部 (Honolulu) TEL: 1-808-7378885 タイ Bangkok TEL: 66-2-3281161-3 カナダ ベトナム Hochiminh TEL: 1-604-2667699 TEL:84-8-38535001 メキシコ TEL: 1-760-7688998 ミャンマー Yangon TEL:95-1-541494 ドミニカ Santo Domingo マレーシア TEL: 1-809-5300972 Penang ブラジル Sao Paulo TEL:604-2281013 TEL:55-11-55394091 Malaka TEL:606-2810818 イギリス TEL: 44-20-88699864 シンガポール TEL:65-65829958 フランス TEL: 33-1-45860312 インドネシア Jakarta TEL:62-21-5055999 ドイツ Hamburg 大愛テレビ局 TEL: 49 (40) 388439 TEL:62-21-50558889 オランダ Amsterdam スリランカ Hambantota TEL:31-629-577511 TEL:94(0)472256422 スウェーデン Goteborg ヨルダン Amman TEL: 46-31-227883 TEL:962-6-5817305 オーストリア Vienna トルコ Istanbul TEL:43-1-7346988 TEL:90-212-4225802 南アフリカ Gauteng オーストラリア Sydney TEL: 27-11-4503365 TEL:61-2-98747666 中国蘇州 ニュージーランド TEL:86-512-80990980 Auckland TEL:64-9-2716976

#### 慈濟

2018年1月18日発行・253号 中華郵政台北誌字第909號執照登記為雜誌交寄 Printed In Taiwan

発行人 釋證厳

発行所 慈済基金会

〒112台湾台北市北投区立徳路2号

編 集 慈済日本語翻訳チーム

杜張瑤珍·王麗雪

校 閲 山田智美

電 話 (886)02-2898-9000

FAX (886)02-2898-9994

E-mail: 021620@tzuchi.org.tw

慈済基金会日本支部

〒169-0072 東京都新宿区大久保 1-2-16

電 話 (03)3203-5651 ~ 5653

FAX (03)3203-5674

E-mail: jptzuchi@yahoo.com.tw

tzuchi@tzuchi.jp

證厳法師のお言葉、委員や会員の体験談、慈済に関するニュース等を日本の方々にお知らせする目的でこの小冊子を編集しました。日本文への翻訳は素人である私たちがしましたので、不備な点や、つたないところがあると思います。ご感想やご教示がいただけますれば幸いに存じます。(日文組編集同人)



#### 最高の笑顔 大地の守護者

黄美鳳さんの眩しい笑顔は、まるで勇気を持って運命と闘う自分の人生を謳歌しているように見える。4歳の時、転んで脊髄を損傷したため身長が130センチに満たない。かつてはそれがコンプレックスだったが、楽観的に受け入れることにした。70歳を迎えてからはリサイクルボランティアとして環境保全をすることが「一番の楽しみ!」と喜びを見いだしている。

(撮影、文・黄筱哲 台南市中西区)





慈済ものがたり